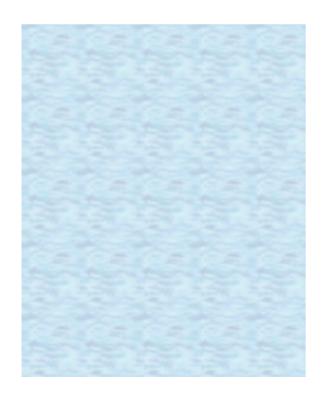
Panasonic

操作マニュアル

パーソナルコンピューター

品番 **CF-H1 シリーズ**

このたびはパナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。

表記とイラストについて

➔ : 本書内の参照先を示しています。

(画面マニュアル) : 画面で見るマニュアルを意味します。

お願い : 安全にお使いいただくための情報を記載しています。

お知らせ : お使いいただくうえで便利な情報を記載しています。

クリック : デジタイザーペンまたは指で画面をタッチすることを意味します。

右クリック : デジタイザーペンで対象に触れ続けて、デジタイザーペンの周りに円が描かれたら離してください。
デジタイザーペンのボタンを押し続けながら対象をタップする方法でも「右クリック」できます。

[スタート] - [すべてのプログラム] :
画面上の [スタート] をクリックした後、[すべてのプログラム] をクリックすることを意味します。

< クレードルと外部キーボードに接続している場合 >

↵ : [↵] （Enter）キーを押すことを意味します。

Ctrl + F7 : [Ctrl] キーを押しながら、[F7] キーを押すことを意味します。

● お使いのキーボードによっては、キーの表示がこのマニュアルと異なる場合があります。（例：「Del」が「Delete」）

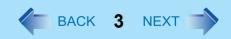
< フラッシュメモリーモデルの場合 >

ハードディスクドライブの代わりにフラッシュメモリードライブが内蔵されています。
本書に記載されている「ハードディスク」「ハードディスクドライブ」は、「フラッシュメモリー」「フラッシュメモリードライブ」と読み替えてください。

Windows XP について

本書では、Windows XP の初期設定を用いて説明しています。

● [コマンド プロンプト] を全画面表示にしないでください。

デュアルタッチ

マウスを使用する感覚で、画面に触れて Windows を操作することができます。
本機には、次の 2 種類のポインティングデバイス機能があります。

- デジタイザー：デジタイザーペン（付属）を使って操作できます
- タッチパネル：指で操作できます

画面をデジタイザーペンと指で同時に触れた場合は、デジタイザーペンでの操作が有効になります。

- **右クリックするには**

  < デジタイザーペン（付属）を使う場合 >

  次の 2 つの方法があります。

  - デジタイザーペンで対象に触れ続け、周りに円が描かれたら離す。
  - デジタイザーペンのボタン（A）を押しながら対象に触れる。

  < デジタイザーペンを使わない場合 >

  - 指で対象に触れ続け、周りに円が描かれたら離す。

お知らせ

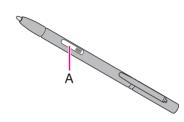
- デュアルタッチによる操作はセットアップユーティリティでは使えません。
- 「コマンド プロンプト」画面で入力するときは、[Tablet PC 入力パネル] をキーボード入力モードにしてください。入力パッドモードでは正しく入力できません。

デュアルタッチによる操作

- 付属のデジタイザーペンまたは指で画面に触れる

  画面に触れるときは、付属のデジタイザーペンまたは指を使用してください。
  付属のデジタイザーペンや指以外のもの（指の爪や金属、硬くて先のとがったもの）で画面に触れると、表面に傷跡や汚れが付いて誤動作の原因になることがあります。

- 画面に触れるときに大きな力をかけない

  軽く画面に触れるだけで十分です。大きな力をかけると表面を傷つけることがあります。

画面のお手入れ

- 画面が汚れたときは、専用布でふき取る

  本機の画面は汚れがふき取りやすくなっていますので、汚れは専用布で簡単にふき取ることができます。簡単に汚れが落ちなければ、表面に息を吹きかけてからふき取ってください。
  専用布に水や溶剤を染み込ませてふき取らないでください。

- 画面表面のひっかき傷を防ぐため、次の項目を確認する
  - デジタイザーペンまたは指で画面操作しているか
  - 表面が汚れていないか
  - 専用布が汚れていないか
  - デジタイザーペンの先端が汚れていないか
  - 指が汚れていないか

画面に触れて操作する場合の注意事項

- 表示領域の外に触れない

  操作できる範囲は画面の表示領域内です。表示領域の外に触れると、誤動作したり傷がついたりする原因になります。

- 画面に必要以上の力をかけない

  LCD をつかんでパソコンを持ち上げないでください。また、LCD の上に物を載せないでください。このような取り扱いをすると、画面のガラス面や LCD が破損することがあります。

- 気温が下がると操作時の応答速度が低下する

  パソコンを気温 5 ℃ 未満の場所で使用すると画面の応答速度が低下することがありますが、これは誤動作ではありません。パソコンが室温まで上がると応答速度は正常な状態に戻ります。

- 画面で触れた位置とは異なる位置へカーソルがジャンプしたときや、**LCD** の解像度が変更されたときは、補正（キャリブレーション）を実行する（➔ **5** ページ）

LCD 画面清掃についてのお願い

本機の LCD 画面は、屋外での視認性向上のため、低反射コーティングがされており、お取り扱いによっては傷つきやはがれが発生する可能性があります。そのため、本機には LCD をふくための専用布を付属しております。ご使用になる前に以下の説明を必ずお読みください。

- 指紋等の LCD 画面の汚れは、必ず付属の専用布でふいてください。
- 専用布で LCD 画面以外をふかないでください。

＜専用布の使いかた＞

- 専用布は乾いた状態で使用してください。専用布に水や薬品を付けないでください。
- LCD がぬれた場合は専用布で軽くふき取ってください。
- 本機を使用する前に、LCD 画面をふくことをおすすめします。
- LCD 画面に付着した砂やほこりはあらかじめ、専用布の片面で軽くふき取っておいてください。この際、強くふき取ると砂やほこりで LCD の表面を傷つけることがあります。
  次に、砂やほこりをふき取った面と反対の面で、指紋等の汚れをふき取ってください。砂やほこりをふき取った後は、布を洗濯（下記参照）して砂やほこりを取っておいてください。
- 布が汚れた場合は中性洗剤を使用して洗濯してください。漂白剤、柔軟材の使用や煮沸消毒をしないでください。

補正（キャリブレーション）

■ デジタイザーの補正

デジタイザーの補正は、デジタイザーペンを使って以下の操作を行ってください。

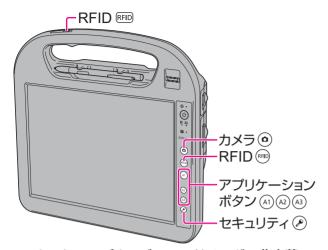
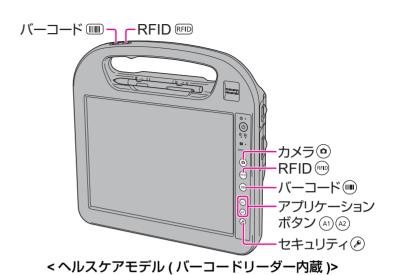
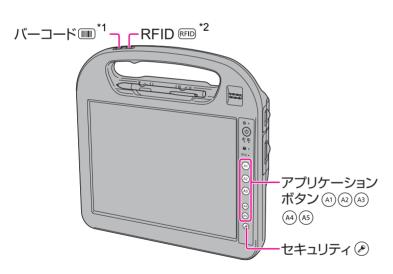
1. **[スタート] - [コントロールパネル] - [プリンタとその他のハードウェア] をクリックする。**
2. **[タブレットとペンの設定] をクリックする。**
3. **[設定] で [調整] をクリックする。**
4. **画面上の 4 か所に "+" マークが表示されるので、デジタイザーペンで順に触れ、[OK] をクリックする。**

■ タッチパネルの補正

- タッチパネルの補正は、指を使って行ってください。付属のデジタイザーペンは使用しないでください。
- 画面表示を回転させて使用する場合、回転させた状態で補正を行ってください。

1. **[タッチ設定] を起動する。[スタート] - [コントロールパネル] - [コントロールパネルのその他 のオプション] - [タッチ設定] をクリックする。**
2. **[調整開始] をクリックする。**
3. **画面上の 4 か所に順番に " ✛ " が表示されるので、指で点滅するまで 1 つずつ触れた後、[終了] をクリックする。**
4. **パソコンを再起動する。**

ハードウェアボタン

< ヘルスケアモデル (バーコードリーダー非内蔵)>

< ヘルスケアモデル (バーコードリーダー内蔵)>

< フィールドモデル >

*1 フィールドモデル (バーコードリーダー内蔵) のみ

*2 フィールドモデル (RFID リーダー内蔵) のみ

ボタン	機能
(カメラ) *3	**カメラボタン** 写真を撮ります。（➔ 49 ページ）
RFID *3 RFID *4	**RFID リーダーボタン** RFID タグからデータを読み取ります。（➔ 59 ページ）
(バーコード) *5 (バーコード) *6	**バーコードリーダーボタン（➔ 61 ページ）** バーコードを読み取ります。
A1 A2 A3 *7 A4 *8 A5 *8	**アプリケーションボタン** 登録されている機能またはアプリケーションを起動します。（➔ 17 ページ）
(セキュリティ)	**セキュリティボタン** **Ctrl** + **Alt** + **Del** と同じ働きをします。

*3 ヘルスケアモデルのみ
*4 RFID リーダー内蔵モデルのみ
*5 ヘルスケアモデル (バーコードリーダー内蔵) のみ
*6 バーコードリーダー内蔵モデルのみ
*7 ヘルスケアモデル (バーコードリーダー非内蔵) およびフィールドモデルのみ
*8 フィールドモデルのみ

お知らせ

- ハードウェアボタンは、Windows 画面が表示されているときに働きます。
- Windows が起動した直後や、Windows のログオン画面（またはようこそ画面）が表示された直後は、ハードウェアボタンが働かない場合があります。

■ セキュリティボタンに別の機能を割り当てる

お買い上げ時、セキュリティボタンは Ctrl + Alt + Del として働きます。
同様に、Windows 起動時（[パナソニック] ブートスクリーンが表示されている間）は、セキュリティボタンは F2 として働きます。
Windows 起動時に、 F1 から F12 までのボタンとして機能するように、ボタンを設定することができます。

1. **セットアップユーティリティを起動する（➔ 98 ページ）。**
2. **「メイン」を選択する。**
3. **「SAS ボタン」を選択して ↵ を押す。**
4. **↑ ↓ を押して、割り当てたいボタン（F1 から F12）を選択して、↵ を押す。**
5. **F10 を押し「はい」を選択し、↵ を押す。**

お知らせ

- Windows 起動後は、セキュリティボタンは「SAS ボタン」の設定に関係なく Ctrl + Alt + Del として働きます。

タブレット PC 入力画面のオンスクリーンキーボードの代わりにソフトウェアキーボードを使用することができます。ソフトウェアキーボードを使用すると、キーボードのサイズを変えたり、テンキータイプのソフトウェアキーボードを使用したりできます。

お知らせ

- タブレット PC 入力画面をアンインストールすることはできません。文字入力時に、ソフトウェアキーボードかタブレット PC 入力画面を選んでください。

ソフトウェアキーボードをインストールする

1 **管理者のユーザーアカウントでログオンする。**

2 **[スタート] をクリックし、[ファイル名を指定して実行] に [c:¥util¥meiskb¥setup.exe] と入力し、[OK] をクリックする。**
画面の指示に従ってください。

3 **[はい、すぐにコンピュータを再起動させます] にチェックマークを入れ、[終了] をクリックする。**
パソコンが再起動します。

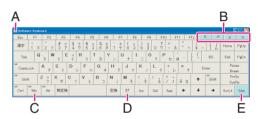
ソフトウェアキーボード

1 **[スタート] - [すべてのプログラム] - [Panasonic] - [Software Keyboard] をクリックする。**

2 **ソフトウェアキーボードに触れる。**

- ショートカットキーを使うには
  例 : **Ctrl** + **C**
  Ctrl を押した後（青色に変わる）、**C** を押します。
- 入力できる言語を追加した場合は、タスクトレイに言語バーが表示されます。キーボードの言語を選ぶには、タスクトレイの言語バーを使ってください。キーボードの言語が変わらない場合は、ソフトウェアキーボードのタイトルバーをクリックしてから、もう一度アプリケーションを選択してください。

A. ソフトウェアキーボードのメニューが表示されます (➔ 12 ページ)。
B. 画面の四隅に移動します。
C. 1回クリック : Windows のショートカットキー (+ **F** など) として動作します。
   2回クリック : と同じ働きをします。
D. マウスの右ボタンクリックと同じ働きをします。(キーと同じ)
E. 標準タイプのソフトウェアキーボードとテンキータイプのソフトウェアキーボードを切り替えます。

お知らせ

- ログインのあと、ソフトウェアの **Ctrl** + **Alt** + **Del** は使用できません。**Ctrl** + **Alt** + **Del** の代わりに [ ] ボタンを使用してください。
- [コマンドプロンプト] 画面が全画面表示になっている場合は、ソフトウェアキーボードで入力できません。
- アプリケーションソフトごとに異なる言語を設定することができ（⇒ Windows ヘルプ）、アプリケーションソフトウェアに従いキーボードの配置が切り換わります。
- 言語によっては、一部のキーがオレンジ色に表示されます。これらのキーは「 ë 」や「 ô 」などの入力に使います。

ソフトウェアキーボードのメニュー

1 (A) をクリックする。

2 **使いたい機能にチェックマークを付ける。**

- **[自動移動]**
  選択されているウィンドウを隠さないように、ソフトウェアキーボードが自動的に移動します。
- **[自動復元]**
  ソフトウェアキーボードが画面右下のタスクトレイに最小化されている場合、文字入力が可能な状態になると、ソフトウェアキーボードが自動的に復元されます。アプリケーションによっては、自動的に復元しない場合もあります。
- **[常に最前面表示]**
  ソフトウェアキーボードを常に最前面に表示するかどうかを設定します。
- **[半透明]**
  ソフトウェアキーボードを半透明表示にします。
- **[大]/[中]/[小]**
  ソフトウェアキーボードのサイズを選びます。
- **[テンキー（大）]/[テンキー（中）]/[テンキー（小）]**
  テンキーボードのサイズを選びます。
- **[サイズの自動変更]**
  画面表示の角度に応じてサイズが変化します。

お知らせ

- テンキータイプのソフトウェアキーボードに表示される通貨記号（B）は変更することができます。
  [スタート] - [コントロールパネル] - [日付、時刻、地域と言語のオプション] - [地域と言語のオプション] - [地域オプション] - [カスタマイズ] - [通貨] - [通貨記号] をクリックする。
  - 現在の通貨記号を変更したあと、T（A）をクリックしてテンキータイプのソフトウェアキーボードのサイズを変更すると、選択された通貨記号が表示されます。
- （C）を使って単位を入力できます。

Panasonic Dashboard を使って以下の操作ができます。

- バッテリー残量の確認
- 内部 LCD 輝度の変更
- カメラ照明の設定変更
- クリーニングユーティリティ画面の色の変更
- タッチパネル操作の有効／無効の設定
- 登録されているアプリケーションソフトの起動
- クリーニングのお知らせ、RFID、タッチパネル、Panasonic Dashboard とアプリケーションボタンのボタン割り当ての設定変更

1 **< ヘルスケアモデル >**
アプリケーションボタン [A2]*1 (A) を押す。
< フィールドモデル >
[Panasonic Dashboard] が割り当てられているアプリケーションボタン (A)*2 を押す。

以下の方法でも Panasonic Dashboard を起動することができます。

画面右下のタスクトレイの をクリックして [設定] をクリックする。

*1 アプリケーションボタンの設定は、変えることができます（➔ 17 ページ）。

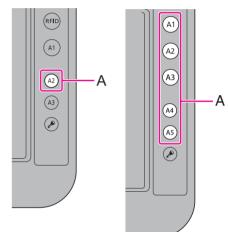
*2 アプリケーションボタンの割り当てを確認したり変更するときは、[アプリケーションボタン設定] をお使いください（➔ 17 ページ）。

< ヘルスケアモデル (バーコードリーダー非内蔵)>　< フィールドモデル >

2 **操作や設定を行う。**

[**バッテリー**]（B）
バッテリーの残量と残り時間を確認することができます。（残り時間の表示は目安です。時間が増減することがありますが、故障ではありません。）

[**輝度**]（C）
LCD の輝度を変更することができます。
スライダーバーの任意の位置をクリックするだけで輝度を変更することができます。
バッテリー駆動の場合と、電源に接続している場合とで別々に輝度を設定することができます。

[**カメラ照明**]（D）
- カメラ使用中に照明のスイッチを表示させるには、[カメラ使用中に照明のスイッチを表示する] にチェックマークを付けてください。

- プレビュー開始時に照明をつけるには、[プレビュー開始時に照明を点ける] にチェックマークを付けてください。

[クリーニングユーティリティ]（E）
クリーニングユーティリティの画面の色を変更することができます。[半透明] にチェックマークが付いているときは、その色で Windows 画面が透けているように見えます。

[タッチパネル]（F）
[デジタイザーペンのみ使用] にチェックマークが付いているときは、デュアルタッチ操作にはデジタイザーペン（付属）のみ使用できます。デジタイザーペン以外を使用することはできません。本機の画面に手をのせながら、デジタイザーペンで画面に触れるときに、チェックマークを付けることをお勧めします。
この設定はユーザーごとに適用されます。

ソフトウェアボタン（G）
あらかじめ登録されているアプリケーションソフトを起動することができます。[詳細設定] メニュー（下記）で登録されているアプリケーションソフトを変更することができます。

[詳細設定]（H）
管理者のユーザーアカウントでログオンしている場合に、[詳細設定] を選ぶことができます。
[詳細設定] メニューが表示されます。以下の設定を変更することができます。
設定した後に、[OK] をクリックして [詳細設定] メニューを閉じてください。

[クリーニングのお知らせ]（I）
クリーニングを促すメッセージが表示されるタイミングを指定します。以下のタイミングからいくつかを選択することができます。
- [定期的]
  最後にクリーニングを実行してから、指定時間が経過したとき
- [ログオン時]
  Windows にログオンしたとき
- [バッテリー交換時]
  バッテリーを交換したとき
- [クレードルから取り外したとき]
  本機をクレードルから取り外したとき

[RFID]（J）
省電力のため、非接触 IC カード読み取り機能を使わないときは、チェックマークを付けてください。

チェックマークが付いているときは、RFID ボタンを押したときだけデータを読み取ります。

[タッチパネル]（K）
[デジタイザーペンのみ使用] にチェックマークが付いているときは、デュアルタッチ操作にはデジタイザーペン（付属）のみ使用できます。デジタイザーペン以外を使用することはできません。本機の画面に手をのせながら、デジタイザーペンで画面に触れるときに、チェックマークを付けることをお勧めします。
この設定はすべてのユーザーに適用されます。

[ボタン割り当て]（L）
Panasonic Dashboard 画面に表示されているボタンに、実行可能なファイルまたはアプリケーションソフトを登録することができます。
① いずれかのボタンをクリックする。
② [動作] から動作を選択する。
[ディスプレイ切り替え]、[クリーニングユーティリティ]、[ズームビューアー]、[操作マニュアル]、[アプリケーションを起動する] の中から選択することができます。工場出荷時の設定に戻す場合は、[初期設定に戻す] をクリックしてください。
[アプリケーションを起動する] を選択したときは、[ラベル] にボタンに表示される名称を入力し、「プログラムの場所」に実行したいファイルを指定してください。
- 「.exe」の他に「.pdf」「.jpeg」「.wma」などの拡張子が付いたファイルを選択することができます。
- 「.exe」の拡張子が付いたファイルを選択したときは、[プログラムへの引数] にパラメーターを指定することができます。
- アプリケーションを無効にする場合は、テキストボックスを空白にしてください。

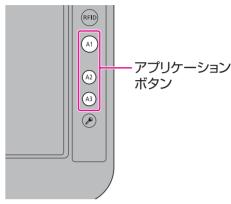
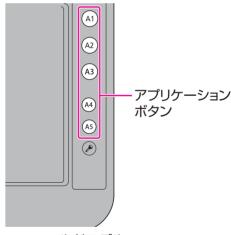
[アプリケーションボタン設定]（M）
「アプリケーションボタン設定」（➔ 17 ページ）

3 **[OK] をクリックし、Panasonic Dashboard 画面を閉じる。**

アプリケーションボタン設定

アプリケーションボタンに、お気に入りのアプリケーションの起動機能を割り当てることができます。

1 **[スタート]- [すべてのプログラム] - [Panasonic] - [アプリケーションボタン設定] をクリックする。**
Panasonic Dashboard からもアプリケーションボタン設定ユーティリティを起動することができます。

2 **設定する。**
アプリケーションの実行ファイルを登録することができます。

< ヘルスケアモデル (バーコードリーダー非内蔵)>

< フィールドモデル >

お知らせ

- < ヘルスケアモデル（バーコードリーダー内蔵）>
  [アプリケーションボタン設定ユーティリティ] の画面に [A3] ボタンは表示されません。

1　各ボタンの [動作] から動作を選択する。

＜ヘルスケアモデル＞

[< なし >]、[Dashboard]、[ディスプレイ切り替え]、[右クリック]、[クリーニングユーティリティ]、[操作マニュアル] または [アプリケーションを起動する] の中から選択することができます。工場出荷時の設定に戻す場合は、[初期設定に戻す] をクリックしてください。

[アプリケーションを起動する] を選択しているときは、[プログラムの場所] に実行したいファイルを指定してください。

＜フィールドモデル＞

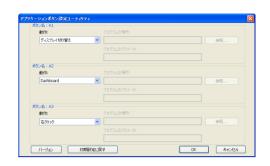
ご購入のモデルにより、アプリケーションボタン [A1]、[A2] または [A3] にあらかじめ機能が割り当てられています。

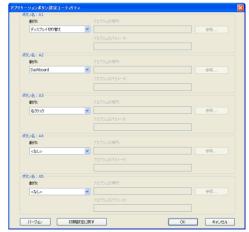
例えば、カメラ、RFID リーダー、バーコード・リーダー機能は、これらの機能を含むモデルにおいてアプリケーションボタン [A1]、[A2]、または [A3] にそれぞれ割り当てられています。

これらの割り当ては変更することができません。

残りのアプリケーションボタンに、[< なし >]、[Dashboard]、[ディスプレイ切り替え]、[右クリック]、[クリーニングユーティリティ]/[ズームビューアー]、[操作マニュアル]、または [アプリケーションを起動する] の中から選択してください。工場出荷時の設定に戻すには、[初期設定に戻す] をクリックしてください。[アプリケーションを起動する] を選択しているときは、[プログラムの場所] に実行したいファイルを指定してください。

- 「.exe」の他に「.pdf」「.jpeg」「.wma」などの拡張子が付いたファイルを選択することができます。
- 「.exe」の拡張子が付いたファイルを選択したときは、[プログラムのパラメータ] にパラメーターを明記することができます。
- アプリケーションボタンを無効にする場合は、[< なし >] を選択してください。

2　[OK] をクリックする。

< ヘルスケアモデル (バーコードリーダー非内蔵)>

< ヘルスケアモデル (バーコードリーダー内蔵)>

< フィールドモデル（カメラ、RFID リーダー、バーコードリーダー内蔵）>

画面にサインなどの簡単な文字や図形を描いて、ビットマップ形式（.bmp）のファイルとして保存することができます。

お願い

- 「Panasonic 手書き」を起動しているときは、ユーザーの簡易切り替え機能を使わないでください。

お知らせ

- 画面の色数を変更すると、「Panasonic 手書き」の画面が乱れることがあります。その場合は、画面右下のタスクトレイのを右クリックして [Panasonic 手書きの終了] をクリックした後、再度「Panasonic 手書き」を起動してください。
- 他のアプリケーションソフトを同時に実行していると、「Panasonic 手書き」で正しく描画できないことがあります。その場合は、他のアプリケーションソフトを閉じてください。

「Panasonic 手書き」を起動する

1 **画面右下のタスクトレイのをダブルクリックする。**
または、[スタート] - [すべてのプログラム] - [Panasonic] - [Panasonic 手書き] をクリックする。

お知らせ

- 画像サイズの変更は、描画する前に[オプション] - [画面サイズの設定]で行ってください。描画した後でサイズを変更すると、画質が悪くなります。
- [編集] - [コピー] をクリックすると、ビットマップ画像をコピーして、他のビットマップ形式対応のアプリケーションソフトに貼り付けることができます。

画面を回転させる

1 **< ヘルスケアモデル >**
[A1] ボタン（A）を押す。
< フィールドモデル >
[ディスプレイ切り替え] が割り当てられているアプリケーションボタン（A）を押す。*1

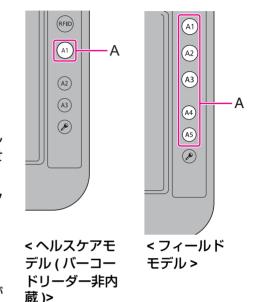
ボタンを押すたびに、時計回りに 90°回転します *2。
本機をクレードルに取り付けて使用している場合は、[A1] ボタンを押しても画面は回転しません。クレードルに取り付けたまま画面を回転させたいときは、次の方法で行ってください。

① 画面右下のタスクトレイの をクリックし、回転したい方向をクリックする。

*1 アプリケーションボタンの割り当てを確認したり変更するときは、[アプリケーションボタン設定] をお使いください（➔ 17 ページ）。

*2 回転させる順番を変更することができます。(➔ 21 ページ)
クレードルと外部ディスプレイを同時に使用している場合、画面の出力先が切り替わります。

< ヘルスケアモデル (バーコードリーダー非内蔵)>　**< フィールドモデル >**

お知らせ

- 次の方法でも画面を回転させることができます。
  [スタート] - [コントロールパネル] - [プリンタとその他のハードウェア] - [タブレットとペンの設定] - [画面] をクリックする。
- 画面を回転させているとき：
  - 拡張デスクトップを使わないでください。デュアルタッチが正しく操作できないことがあります。
  - 画面の解像度を内部 LCD の解像度より高く設定しないでください。
  - パソコンの動作速度が少し落ちます。
- 画面を回転させていると、動画が正しく表示されなかったり、音声が途切れたりすることがあります。画面角度を [横（プライマリ）] に戻してください。
- Windows を起動しログオンしてすぐに画面を回転させると、約 1 分以内に画面が以前の状態に戻ることがあります。その場合は、再度画面の回転を行ってください。

設定を変更する

1 **画面右下のタスクトレイの をクリックして、[設定] をクリックする。**

2 **設定を変更する。**

A. 画面回転の順番を変更できます。[なし] を選ぶと、順番がスキップされます。

管理者のユーザーアカウントでログオンしているときのみ、次の設定で変更ができます。

B. [全てのユーザーで設定ダイアログ利用を許可する] にチェックマークを付けると、各ユーザーが順番を選ぶことができます。

C. [この回転設定を全てのユーザーに適用する] にチェックマークを付けると、選んだ順番がすべてのユーザーに設定されます。
すべてのユーザーに同じ設定を使うには、[全てのユーザーで設定ダイアログ利用を許可する] のチェックマークを外し、[この回転設定を全てのユーザーに適用する] にチェックマークを付けてください。

3 **[OK] をクリックする。**

パソコンをすばやく起動する

「スタンバイ」や「休止状態」機能を使うと、アプリケーションソフトやファイルを閉じることなくパソコンの操作を終わることができます。操作を再開すると、スタンバイまたは休止状態に入る前に実行していたアプリケーションソフトやファイルにすばやく戻ることができます。

機能	状態の保存先	復帰するまでの時間	電力供給
スタンバイ	メモリー	短い	必要 （ハードディスクに保存する前に電力の供給がなくなると、保持されていたデータは失われます。）
休止状態	ハードディスク	やや長い	不要 （ただし、休止状態を維持するために若干の電力が消費されます。）

スタンバイ・休止状態の設定

1 **[スタート] - [コントロールパネル] - [パフォーマンスとメンテナンス] - [電源オプション] - [詳細設定] をクリックする。**

2 **[コンピュータの電源ボタンを押したとき] で [スタンバイ] または [休止状態] を選び、[OK] をクリックする。**

お知らせ

- 休止状態を使用するには、上記の手順で [休止状態] を選んでください。

使用上のお願い

- 長時間スタンバイ状態にしておく場合は、AC アダプターを接続してください。AC アダプターを接続できない場合は、スタンバイ状態ではなく休止状態にしてください。
- スタンバイまたは休止状態を繰り返すと、パソコンが正常に動作しなくなる場合があります。パソコンの動作を安定させるため、定期的に（1 週間に 1 回程度）スタンバイまたは休止状態を使わずに Windows を再起動してください。
- 大切なデータは保存してください。
- リムーバブルディスクやネットワークドライブから開いたファイルは閉じてください。
- 休止状態に入るまでに 1 ～ 2 分かかる場合があります。画面が暗くなりますが、いずれのキーにも触れないでください。

- リジュームの際は、セットアップユーティリティで設定したパスワードは要求されません。スタンバイまたは休止状態のときのセキュリティには、Windows のパスワードをお使いください。
  ① [スタート] - [コントロールパネル] - [ユーザー アカウント] をクリックして、アカウントを選ぶ。
  ② [パスワードを作成する] をクリックし、パスワードを設定する。
  ③ [スタート] - [コントロールパネル] - [パフォーマンスとメンテナンス] - [電源オプション] - [詳細設定]をクリックし、[スタンバイから回復するときにパスワードの入力を求める] にチェックマークを付ける。
- 下記の場合は、スタンバイ・休止状態に入らないでください。実行中のファイルやデータが壊れたり、スタンバイ・休止状態が働かなくなったり、パソコンおよび周辺機器が正常に動作しなくなることがあります。
  - ハードディスクドライブ状態表示ランプ と RFID 状態表示ランプの点灯中
  - オーディオファイルの録音・再生中や、MPEG ファイルなどの動画の再生中
  - 通信ソフトウェアやネットワーク機能を使用してデータ通信をしているとき
  - 周辺機器の使用中
    （周辺機器が正常に動かなくなったときは、パソコンを再起動してください。）

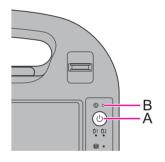
スタンバイ・休止状態に入る／リジュームする

■ スタンバイ・休止状態に入る

1 ビープ音 *1 が鳴るまで電源スイッチ（A）を押す。

スタンバイ：電源状態表示ランプ（B）が緑色に点滅する。
休止状態：電源状態表示ランプ（B）が消える。

- スタンバイ状態には、電源スイッチを押す代わりに、[スタート] - [終了オプション] - [スタンバイ] をクリックして入ることができます。

*1 音声出力をオフにしていると、ビープ音は鳴りません。

お願い

- ビープ音*2が鳴ったら、すぐに電源スイッチを離してください。電源スイッチを4秒以上押すと、パソコンが強制終了し、[コンピュータの電源ボタンを押したとき]を[シャットダウン]に設定していたとしても、保存されていないデータは失われます。（➔ 22ページ「スタンバイ・休止状態の設定」）

*2 場合によっては、ビープ音が鳴らないことがあります。

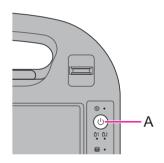
- スタンバイ・休止状態処理中は次の操作をしないでください。
  - 画面、ハードウェアボタン、電源スイッチに触れる
  - 外部マウスや周辺機器を使う
  - AC アダプターの接続や取り外し
  - クレードルへの取り付け／取り外し

  電源状態表示ランプが緑に点滅（スタンバイ）または消灯（休止状態）するまでお待ちください。
- スタンバイ・休止状態に入るまでに 1 ～ 2 分かかる場合があります。

スタンバイ・休止状態のとき

- 周辺機器（クレードルを含む）の接続・取り外しを行わないでください。誤動作の原因になります。
- スタンバイ状態では電力が消費されています。電力の供給がなくなると、メモリーに保持されていたデータが失われます。スタンバイに入るときは、AC アダプターを接続してください。

■ スタンバイまたは休止状態からリジュームする

1 **電源スイッチ（A）を押す。**

お願い

- リジュームが完了するまで、下記の操作をしないでください。画面表示のリジューム後、約 30 秒（通常）または 1 分（ネットワーク接続しているとき）お待ちください。
  - 画面、ハードウェアボタン、電源スイッチに触れる
  - 外部マウスや周辺機器を使う
  - AC アダプターの接続や取り外し
  - Windows の終了または再起動
  - スタンバイまたは休止状態に入る（約 1 分間お待ちください）
  - クレードルへの取り付け／取り外し

お知らせ

- スタンバイ・休止状態からリジュームしたとき、「TosBtMng は動作を停止しました」のメッセージが表示される場合があります。
  [プログラムの終了] をクリックしてください。
  Bluetooth 接続が切れたときは、[スタート] - [すべてのプログラム] - [Bluetooth] - [Bluetooth 設定] をクリックしてから、接続し直してください。

消費電力を節約する

以下の設定を行うと省電力の効果があります。バッテリーで使用する場合は、より長時間使えるようになります。

無駄な電力を使わない

以下の方法で消費電力を節約することができます。

- **[電源オプション] を変更する**
  [スタート] - [コントロールパネル] - [パフォーマンスとメンテナンス] - [電源オプション] をクリックして、[電源設定] の [バッテリの最大利用] を選択します。工場出荷時は [電源設定] が [ポータブル／ラップトップ] に設定されていますが、[バッテリの最大利用] に変更することでさらに消費電力が節約できます。さらに、[モニタの電源を切る] で設定されている時間を短くするなど、使用状況に応じて詳細に設定してください。

- **Panasonic Dashboard を使って内部 LCD の輝度を暗くする**
  内部 LCD の輝度を下げることで、消費電力を抑えます。

- **使わないときは本機の電源を切る**
  無線 LAN、ワイヤレス WAN（ワイヤレス WAN 内蔵モデルのみ）または Bluetooth の電源を個別に切ることもできます。

- **使わない周辺機器（USB 機器、外部マウスなど）は取り外す**

- **スタンバイ・休止状態を活用する**
  パソコンからしばらくの間離れるときは、スタンバイ状態または休止状態にしてください。パソコンの動作が停止し、消費電力を抑えることができます。

大切なデータを守るために、セキュリティ機能を使うことをお勧めします。

- 他のセキュリティ機能については下記をご覧ください。
  - 内蔵セキュリティ（TPM）（➔ 105 ページ）：詳しくは 『内蔵セキュリティチップ（TPM）ご利用の手引き』をご覧ください。

スーパーバイザーパスワード／ユーザーパスワードを設定する

ユーザーパスワードを設定する前に、スーパーバイザーパスワードを設定してください。

準備

- パソコンをクレードルに取り付けて、外部キーボードをクレードルに接続してください。

1 **セットアップユーティリティを起動する（➔ 98 ページ）。**

2 **「セキュリティ」を選ぶ。**

3 **「スーパーバイザーパスワード設定」または「ユーザーパスワード保護」-「保護する」を選び、↵ を押す。**

4 **「新しいパスワードを入力してください」にパスワードを入力し、↵ を押す。**
- パスワードがすでに設定されている場合は、「現在のパスワードを入力してください」にパスワードを入力して ↵ を押してください。
- パスワードを無効にする場合は、入力欄を空欄にして ↵ を押してください。

5 **「新しいパスワードを確認してください」に再度パスワードを入力し、↵ を押す。**

6 **F10 を押し、「はい」を選んで ↵ を押す。**

お願い

- パスワードを忘れないようにしてください。スーパーバイザーパスワードを忘れると、パソコンを使用できなくなる可能性があります。その場合はご相談窓口にご相談ください。
- セットアップユーティリティを起動しているときは、他の人にパスワードを設定・変更されないようにパソコンから離れないでください。

お知らせ

- パスワードは画面に表示されません。
- 入力できる文字は、半角の英数字（スペースを含む）で最大 32 文字です。
  - 大文字、小文字は区別されません。
  - テンキーによる数字の入力はできません。
  - パスワードの入力に **Shift** と **Ctrl** は使用できません。
- スーパーバイザーパスワードを無効にすると、ユーザーパスワードも無効になります。

パソコンを無断で使用されたくないとき

起動時のパスワードを設定することにより、他の人の無断使用からパソコンを守ることができます。

1　パスワードを設定し（➔ 27 ページ）、セットアップユーティリティの「セキュリティ」メニューで「起動時のパスワード」を「有効」に設定する。（➔ 105 ページ）

お知らせ

- パスワードを入力するには、パソコンをクレードルに取り付けて、外部キーボードをクレードルに接続しておく必要があります。
- スーパーバイザーパスワードまたはユーザーパスワードが設定されていると、「起動時のパスワード」が「無効」であっても、セットアップユーティリティ起動時にパスワード入力画面が表示されます。

ハードディスク内のデータを読み書きされたくないとき

ハードディスクを別のパソコンに取り付けたときに、ハードディスクのデータを読み書きされないようにします。ハードディスクを元のパソコンに戻すと、データの読み書きができます。

1 **セットアップユーティリティの「セキュリティ」メニューで、「ハードディスク保護」を「保護する」に設定する。（➔ 105 ページ）**

お願い

- 元のパソコンでデータの読み書きをするには、セットアップユーティリティの設定を、ハードディスクを取り外す前と同じにしてください。
- スーパーバイザーパスワードを設定しないと、ハードディスク保護機能は使えません。あらかじめスーパーバイザーパスワードを設定しておいてください（➔ 27 ページ）。
- ハードディスクの修理を依頼する際は：
  - 当社ご相談窓口にご相談ください。
  - 「ハードディスク保護」が「保護しない」になっていることを確認してください。

お知らせ

- ハードディスク保護機能は、内蔵ハードディスクにのみ働きます。外付けのハードディスクには働きません。
- ハードディスク保護はデータの完全な保護を保証するものではありません。

バッテリー状態表示ランプ

本機には 2 個のバッテリーパックを取り付けられます。
それぞれにバッテリー状態表示ランプがあります。
A：バッテリー 1
B：バッテリー 2

<table>
<tr><th>バッテリー状態表示ランプ</th><th>バッテリーの状態</th></tr>
<tr><td>消灯</td><td>バッテリーパックが取り付けられていません。または、充電が行われていません。
• バッテリー残量は、Panasonic Dashboard を使って確認できます。（➔ 14 ページ）</td></tr>
<tr><td>オレンジ色点灯</td><td>バッテリーの充電中です。</td></tr>
<tr><td>緑色点灯</td><td>バッテリーの充電完了です。</td></tr>
<tr><td>緑色点滅</td><td>バッテリーパックが入った状態でバッテリーカバーを閉じたときは：
点滅の回数でバッテリー残量がわかります。
<table>
<tr><th>点滅回数</th><th>バッテリーの充電状態</th></tr>
<tr><td>5 回</td><td>95 % 〜 100 %</td></tr>
<tr><td>4 回</td><td>50 % 〜 94 %</td></tr>
<tr><td>3 回</td><td>25 % 〜 49 %</td></tr>
<tr><td>2 回</td><td>5 % 〜 24 %</td></tr>
<tr><td>1 回</td><td>0 % 〜 4 %</td></tr>
</table>
上記以外のときは：
高温モード時に、バッテリー残量が常温モード時の約 80%[*1] になるまで放電しています（➔ 33 ページ）。この場合は、AC アダプターを接続していても、バッテリーパックを取り外さないでください。取り外すと電源が切れて、データを消失するおそれがあります。
*1　高温モード時におけるバッテリー残量 100% は、常温モード時の 80% と同等です。</td></tr>
<tr><td>赤色点灯</td><td>バッテリー残量が、約 9% 以下になっています。</td></tr>
</table>

バッテリー状態表示ランプ	バッテリーの状態
赤色点滅	**約 1 秒間隔で点滅している場合：** バッテリーパックまたは充電回路が正常に動作していません。 **約 4 秒間隔で点滅している場合：** バッテリーカバーが開いています。 この場合は、バッテリーパックを取り外すことができます。 **約 0.5 秒間隔で点滅している場合：** バッテリーカバーが開いています。 この場合、バッテリーパックを取り外すと、電源供給が絶たれて、パソコンの電源が切れてしまいます。すぐにバッテリーカバーを閉じてください。
オレンジ色点滅	以下の理由で、バッテリーは一時的に充電できない状態です。 • 内部の温度が充電可能範囲外になっている。 • 消費電力量の多いアプリケーションソフトまたは周辺機器を起動しているため、充電するための電力が不足している。
緑とオレンジ色が交互に点滅	気温が低く、ハードディスクの故障を防ぐためパソコンがウォーミングアップしている状態です。パソコンはウォーミングアップ終了後、自動的に起動します。

お知らせ

- 過充電を防ぐため、いったんバッテリーが満充電になると、バッテリー残量が約 95% 未満になるまで再充電されません。

バッテリー残量を確認する

バッテリー残量を画面上で確認できます。

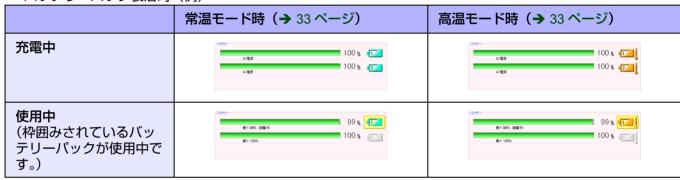
（Windows にログオンした後）

1　Panasonic Dashboard を起動する。

● バッテリーパック装着時（例）

	常温モード時（➔ 33 ページ）	高温モード時（➔ 33 ページ）
充電中	バッテリー 100 % AC電源 100 % AC電源	バッテリー 100 % AC電源 100 % AC電源
使用中 （枠囲みされているバッテリーパックが使用中です。）	バッテリー 99 % 残り 99%（放電中） 100 % 残り 100%	バッテリー 99 % 残り 99%（放電中） 100 % 残り 100%

● バッテリーパック未装着時

常温モード時（➔ 33 ページ）	高温モード時（➔ 33 ページ）
バッテリー －－ % 未挿入 －－ % 未挿入	バッテリー －－ % 未挿入 －－ % 未挿入

お知らせ

- 次のような場合、表示されるバッテリー残量と実際のバッテリー残量が合わないことがあります。正しく表示させるにはバッテリー残量表示補正（➔ 35 ページ）を行ってください。
  - バッテリー状態表示ランプの赤色点灯が長く続く。
  - バッテリー状態表示ランプがオレンジ色に点灯し、「99%」の表示が長く続く。
  - 使用時間が短いにもかかわらず、バッテリー状態表示ランプが赤色に点灯する。
    AC アダプターから電力の供給がないまま長時間スタンバイ状態にしていると、このような状態になる場合があります。
- バッテリーの残量表示が [電源オプションのプロパティ] の [電源メーター] と異なる場合がありますが、故障ではありません。
- バッテリーでの動作時に表示される残り時間は目安です。時間が増減することがありますが、故障ではありません。

高温モード

パソコンを高温環境下で使用したり、満充電の状態で長時間使用したりするときは、高温モードにするとバッテリーの劣化を防ぐことができます。
セットアップユーティリティの「メイン」メニューの「環境」を「自動」（工場出荷時の設定）または「高温」にしてください。（➔ 100 ページ）

お知らせ

- 高温モード時におけるバッテリー残量 100% は、常温モード時のバッテリー残量 80% と同等です。
- 「常温」から「高温」またはその逆に切り替えると、バッテリーがいったん完全に充電または放電されるまで、バッテリー残量が正しく表示されません。
- 「自動」モード：
  いったん常温モードから高温モードへ自動的に切り替わると、バッテリーの劣化を防ぐために、切り替え後の充放電量の合計が満充電量の約 5 倍になるまで常温モードに切り替わりません。
  「自動」モードのとき、「常温」と「高温」が切り替わるのは動作中のバッテリーのみです。他方のバッテリーは切り替わりません。

バッテリー残量が少なくなったときの動作

工場出荷時の設定は以下のとおりです。

- 使用中のバッテリー（バッテリー 1 またはバッテリー 2）の残量が 10% 未満になると、自動的にもう一方のバッテリーに切り替わります。両方のバッテリー残量が少ない場合は、以下のような動作になります。

バッテリー残量が10% になったら [バッテリー低下アラーム]	バッテリー残量が5% になったら [バッテリー切れアラーム]
● 残量が少ないことを知らせるメッセージを表示します。 ↓	● パソコンは休止状態に入ります。 ↓
充電が必要です	AC アダプターを接続するか、バッテリーパックを交換して、パソコンを起動してください
● AC アダプターをすぐに接続してください。AC アダプターがない場合は動作中のプログラムを終了し、パソコンの電源を切ってから電源状態表示ランプが消灯したことを確認してください。 ● 充電してある予備のバッテリーパックがある場合は、電源を切りバッテリーパックを交換して、再度電源を入れてください。	● AC アダプターを接続し、バッテリーを充電してください。 ● 充電してある予備のバッテリーパックがある場合は、バッテリーパックを交換して、再度電源を入れてください。 バッテリーが充電されるかバッテリーを交換するまでは休止状態からリジュームしないでください。

バッテリー容量を正確に表示させる（バッテリー残量表示補正）

バッテリー残量表示補正機能を使うと、バッテリー容量を計測し記憶させることができます。バッテリー残量を正確に表示させるために、この機能を使っていったん満充電にしてから完全に放電させてください。この操作は、お買い上げ後すぐに、少なくとも一度は行ってください。バッテリー残量表示補正は、通常 3 か月置きに実施してください。長くバッテリーパックをお使いの間には、バッテリーパックの劣化などにより、残量が正確に表示されなくなる場合があります。その場合もこの操作を行ってください。

1 **AC アダプターを接続する。**

2 **すべてのアプリケーションソフトを終了する。**

3 **バッテリー残量表示補正を実行する。**

① [スタート] - [すべてのプログラム] - [Panasonic] - [バッテリー] - [バッテリー残量表示補正ユーティリティ] をクリックする。

② 確認メッセージが表示されたら、[開始] をクリックする。

- バッテリー残量表示補正を頻繁に行うと、バッテリーが劣化する原因になります。前回補正してから約 1 か月以内に実行すると、注意を促すメッセージが表示されます。その場合は、バッテリー残量表示補正を実行しないでください。

③ [完全放電には約 2 時間かかります。] のメッセージが表示されたら、[はい] をクリックする。
バッテリー残量表示補正が始まります。
満充電になった後、バッテリーの放電が始まります。放電が完了すると、自動的に電源が切れます。

バッテリー残量表示補正が終了すると、通常の充電が始まります。

お知らせ

- 10 ℃ ～ 30 ℃の温度環境で実行してください。低温で実行すると、正しく補正されない場合があります。
- バッテリー容量が大きいため、バッテリー残量表示補正に時間がかかりますが、故障ではありません。
  - 満充電にかかる時間：両バッテリーで最大約 5.5 時間
  - 完全放電にかかる時間：両バッテリーで約 4 時間
- バッテリー残量表示補正実行中にパソコンの電源を切ると（停電や、誤って AC アダプターまたはバッテリーパックを取り外すなど）、バッテリー残量表示は補正されません。
- バッテリー残量表示補正は、次の手順でも実行できます。

  ① パソコンをクレードルに取り付けて、外部キーボードをクレードルに接続する。
  ② パソコンを再起動する。
  ③ パソコンの起動後すぐ、[Panasonic] 起動画面が表示されている間に F9 を押す。
  ④ バッテリー残量が表示されたら ↵ を押す。
  ⑤ 画面の指示に従って操作を行う。

バッテリーパックを交換する

バッテリーチャージャー（別売り）をお持ちの場合は、どちらかのバッテリーを使用している間に、もう一方のバッテリーパックを取り外すことができます。
バッテリーパックは消耗品のため、交換が必要になります。バッテリーによる駆動時間が著しく短くなり、バッテリー残量表示補正を実行した後でも性能が回復しない場合は、新しいものと交換してください。

お願い

- バッテリーパックは、お買い上げ時には充電されていません。初めてお使いになる前に必ず充電してください。AC アダプターを接続すると自動的に充電が始まります。
- 必ず本機専用のバッテリーパックを使用してください。

交換／取り外しができるバッテリーパックをチェックする

下記の表をご覧になり、バッテリーパックの交換／取り外しを正しく行ってください。誤ってパソコンを終了してしまうと、データの消失やパソコンの故障の原因になります。

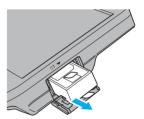
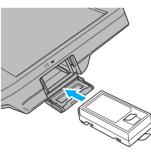
電源オンまたはスタンバイ状態のとき	AC アダプターを接続していない場合	**片方のバッテリーパックのみ交換／取り外しできます。** バッテリーカバーを開いたときに、バッテリー状態表示ランプが赤色に点滅します。 • 点滅が 4 秒間隔のとき：**取り外しできます。** • 点滅が 0.5 秒間隔のとき：**取り外しできません。**
	AC アダプターを接続している場合	**両バッテリーパックとも交換／取り外しできます。**
電源オフのとき		**両バッテリーパックとも交換／取り外しできます。**

1 **バッテリーカバーを開く。**

① バッテリーカバーをスライドする。

② カバーを開く。

- バッテリー状態表示ランプの赤色点滅を確認してください。
  （➔ 30 ページ）

2 **タブを引いてバッテリーパックを取り出す。**

3 **コネクターにぴったりはまるまで、右図の向きに新しいバッテリーパックを入れる。**

4 **バッテリーカバーを閉じる。**

① バッテリーカバーを閉じる。

② カチッと音がするまでバッテリーカバーをスライドする。

- バッテリー状態表示ランプが点滅しないことを確認してください。

お願い

- パソコンを持ち運ぶ際にバッテリーパックが落ちないよう、バッテリーカバーが正しくロックされていることを確認してください。

不要になった充電式電池（バッテリーパック）は、貴重な資源を守るために、廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店にお持ちください。

使用済み充電式電池（バッテリーパック）の届け先
- 最寄りの充電式電池リサイクル協力店へ。
  詳しくは、有限責任中間法人 JBRC のホームページをご参照ください。
  ホームページ：http://www.jbrc.net/hp （2010 年 1 月現在）

自動表示機能を有効にする

初めて Windows にログオンした場合、画面右下に PC 情報ポップアップの自動表示機能を有効に設定するための画面が表示されます。次の手順を行ってください。

1 **[Panasonic からのお知らせが1件あります]をクリックする。**

PC Information
Panasonic からのお知らせが 1 件あります

2 **確認の画面で[はい]をクリックする。**
バッテリーに関する情報の自動表示機能が有効になります。
以降、定期的にバッテリーに関する情報があるかチェックします。

お知らせ

- 確認の画面で[いいえ]または[キャンセル]をクリックした場合
  - [いいえ]をクリックした場合
    以降、確認の画面が表示されなくなります。PC情報ポップアップの自動表示機能を有効にするには、「設定を変更する」（➔ 42ページ）をご覧になり、設定してください。
  - [キャンセル]をクリックした場合
    次回Windowsにログオンしたときに、再度確認の画面が表示されます。
- PC情報ポップアップの自動表示機能を有効にするための確認画面は、新しく作成したユーザーアカウントで初めてWindowsにログオンした場合も表示されます。

バッテリーに関する情報を確認する

PC 情報ポップアップの自動表示機能を有効に設定していると、画面右下に次の場合に [バッテリーに関するお知らせが X 件あります] という小ポップアップ画面が表示されます。

PC Information
バッテリーに関するお知らせが X 件あります

バッテリーパックの状態は定期的に確認されるため、該当の状態になったときに必ずバッテリーに関する情報が表示されるものではありません。

- **バッテリー残量表示補正に関するお知らせ**
  バッテリーパックの使用開始日、または前回のバッテリー残量表示補正から 180 日以上経過している場合
- **バッテリーパックの消耗に関するお知らせ**
  現在の満充電容量が購入時に比べて 31% ～ 50% の場合（割合（%）は小数点以下切り捨て）
- **バッテリーパックの交換に関するお知らせ**
  現在の満充電容量が購入時に比べて 30% 以下の場合（割合（%）は小数点以下切り捨て）

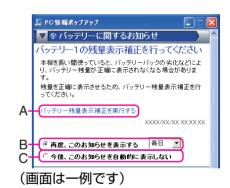
小ポップアップ画面が右下に表示された場合は、次の手順でバッテリーに関する情報を確認してください。

1 **[バッテリーに関するお知らせがX件あります]をクリックする。**

2 **詳細を確認する。**

A. バッテリー残量表示補正を行う方がよい場合に表示されます。クリックすると、[バッテリー残量表示補正ユーティリティ] が起動します。
B. クリックすると、再度自動的にお知らせを表示します。[▼] をクリックすると、再度自動的にお知らせするまでの間隔を設定できます。
C. クリックすると、お知らせが自動的に表示されなくなります。

（画面は一例です）

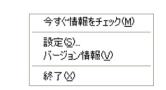
3 **❎をクリックし、ウィンドウを閉じる。**

お知らせ

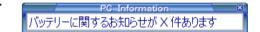
- 満充電容量は次の方法で確認することができます。
  現在の満充電容量を確認する。
  ① [スタート] - [すべてのプログラム] - [Panasonic] - [PC情報ビューアー] - [PC情報ビューアー] をクリックする。
  ② [バッテリー使用状況]をクリックする。
  ③ バッテリー 1、またはバッテリー 2の[満充電容量]の値を確認する。

  購入時の満充電容量を確認する。
  ① [スタート] - [すべてのプログラム] - [Panasonic] - [PC情報ビューアー] - [PC情報ビューアー]をクリックする。
  ② [SMBIOSデータ] をクリックする。
  ③ [Portable Battery] をクリックする。
  ④ [Portable Battery 1] をクリック、または [Portable Battery 2] をクリックする。
  ⑤ [Design Capacity] の値を確認する。
  以下の場合には、値が正しく表示されないことがあります。その場合はパソコンを再起動した後確認してください。
  - セットアップユーティリティで「環境」の設定を変更した場合
  - バッテリーパックがセットされていない状態でパソコンを起動した場合
  - 起動後にバッテリーパックを入れ替えた場合
- バッテリー容量を計測し、記憶／学習するためにバッテリー残量表示補正を行ってください。
  バッテリー残量表示補正を行わないと、バッテリーパックの消耗や交換に関するお知らせが表示されない場合があります。
- バッテリー残量表示補正を行った場合、次回ログオン時にバッテリーに関する情報の確認を行います（「お知らせの設定」画面で [自動チェックする]にチェックマークを付けている項目のみ）。
- 「バッテリー残量表示補正を行ってください」というお知らせと同時に、そのバッテリーパックに対して「バッテリーパックが消耗しています」、「バッテリーパックを交換してください」というお知らせが表示された場合は、正確なバッテリー容量を得るために、バッテリー残量表示補正を行ってください。
- バッテリー残量表示補正は、周囲の温度が10℃～30℃の場所で行ってください。
  低温で実行すると、正しく補正されない場合があります。
- 「バッテリーパックを交換してください」というお知らせが表示された場合は、該当するバッテリーパックを交換してください。交換方法については、「バッテリーパックを交換する」（➔ 36ページ）をご覧ください。

小ポップアップ画面が表示されていないときにバッテリーパックに関するお知らせを確認する

1　**画面右下の通知領域の または を右クリックし、[今すぐ情報をチェック]をクリックする。**

小ポップアップ画面が表示されます。
お知らせする情報がない場合は、「お知らせはありません」という画面が表示されます。[OK]をクリックしてください。

2　**[バッテリーに関するお知らせがX件あります] をクリックする。**

画面右下に表示されます。

3　**詳細を確認する。**

設定を変更する

お知らせの表示条件を変更したり、情報を表示する機能を無効にしたりすることができます。

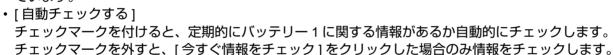
1　**画面右下の通知領域の または を右クリックし、[設定] をクリックする。**

2　**[全般]または[バッテリー] タブを選び、設定を変更したい項目をクリックし、必要な項目を設定する。**

3　**設定が終わったら [OK] をクリックする。**

- [全般]
  すべてのチェックマークを外すと、お知らせする情報があっても小ポップアップ画面は表示されず、画面右下のタスクトレイの が に変わるだけになります。
  - [小ポップアップによる通知]
    チェックマークを付けると、お知らせがある場合に小ポップアップ画面を表示します。
    チェックマークを外しても、情報を手動で確認したときにお知らせがある場合は、小ポップアップ画面が表示されます。
  - [自動的に消す]
    小ポップアップ画面が表示されてから消えるまでの時間を設定します。

- [アイコンの点滅による通知]
  チェックマークを付けると、お知らせがある場合に画面右下の通知領域の PC 情報ポップアップアイコンが点滅します。
- [効果音による通知]
  チェックマークを付けると、お知らせがある場合に効果音が鳴ります。

● [バッテリー]
バッテリーに関する情報の表示の設定を行います。
- [バッテリー 1に関する情報をお知らせする]
  チェックマークを付けると、バッテリー 1に関する情報が表示されます。
  チェックマークを外すと、バッテリー 1に関する情報が表示されなくなり、PC情報ポップアップが終了します。（アイコンが表示されなくなります。）再度アイコンを表示させるには、「アイコンについて」の「お知らせ」（➔ 44ページ）をご参照ください。
- [お知らせする情報]
  各項目をクリックしてチェックマークを外す／付けると、バッテリー 1 に関する情報の表示条件が変更されます。工場出荷時はすべての項目にチェックマークが付いています。
- [自動チェックする]
  チェックマークを付けると、定期的にバッテリー 1 に関する情報があるか自動的にチェックします。

  チェックマークを外すと、[今すぐ情報をチェック] をクリックした場合のみ情報をチェックします。
  [▼] をクリックすると、自動的に情報をチェックする間隔を変更することができます。工場出荷時は [毎日] に設定されています。
- [バッテリー 2の設定]
  バッテリー 2に関する情報の表示の設定を行います。

お知らせ

● [バッテリー 1に関する情報をお知らせする] のチェックマークと [バッテリ2に関する情報をお知らせする] のチェックマークの両方を外すと、バッテリー 1およびバッテリー 2に関する情報が表示されなくなり、PC情報ポップアップが終了します。（アイコンが表示されなくなります。）再度アイコンを表示させるには、「アイコンについて」の「お知らせ」（➔ 44ページ）をご参照ください。

● バッテリーに関するお知らせの設定内容はバッテリーパックごとに保存されます。
バッテリーパックを取り外している場合は、すべて無効の状態になり、PC情報ポップアップが終了します。（アイコンが表示されなくなります。）再度アイコンを表示させるには、「アイコンについて」の「お知らせ」（➔ 44ページ）をご参照ください。

- 初めて取り付けるバッテリーパックの[自動チェックする]の設定について
  [自動チェックする]にチェックマークが付くかどうかは、PC情報ポップアップの自動表示機能を有効にするかどうかの確認画面（「自動表示機能を有効にする」（➔ 39ページ）の手順**2**の画面）で設定した内容がそのまま反映されます。
  この画面で[はい]を選択していた場合は、初めて取り付けるバッテリーパックにも[自動チェックする]にチェックマークが付き、チェックする間隔は工場出荷時の設定（毎日）に設定されます。
  必要に応じて変更してください。

アイコンについて

PC 情報ポップアップは、Windows を起動すると自動的に起動し、画面右下のタスクトレイに表示されるアイコンで各情報を確認することができます。

通常は が表示されています。
が表示された場合は、以下の表をご覧ください。

アイコン	状態
	表示する情報があります。 クリックすると、小ポップアップ画面が表示されます。

お知らせ

- アイコンが表示されていない場合は、バッテリーパックをセットして、[スタート] - [すべてのプログラム] - [Panasonic] - [PC情報ビューアー] - [PC情報ポップアップ] をクリックしてください。
  情報を表示するには、「設定を変更する」（➔ 42ページ）をご覧になり、[バッテリー 1に関する情報をお知らせする] または [バッテリー 2に関する情報をお知らせする] にチェックマークを付けてください。

IC カードスロット

<IC カードスロット搭載モデル >
IC カードを使用するためのソフトが必要です。

お知らせ

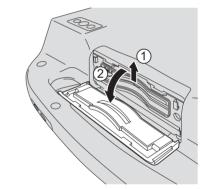
カードの取り扱いについて、以下の点にご注意ください。
- カードを傷つける、折り曲げる、落とす
- 指または先のとがったものでカードの接触部に触れる
- 高温の場所に長時間放置する

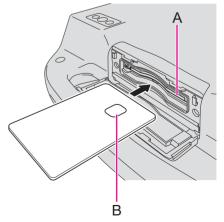
上記のようなカードを挿入した場合は、すぐに取り外してください。

IC カードの挿入 / 取り外し

■ カードを挿入する

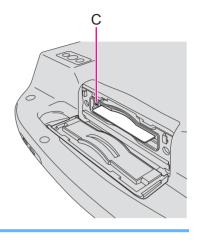
1 **カバーを開く。**

① 矢印の方向にスライドさせる。
② カバーを開く。

2 **接触部 (B) を上にして IC カードをスロット (A) に挿入する。**

- IC カードはスロットの奥までしっかりと挿し込んでください。

■ カードを取り外す

1 **カバーを開く。**

2 **カードが外に出るまで、カード取り出しボタン (C) を押し込む。**

3 **IC カードをまっすぐ取り出す。**

お知らせ

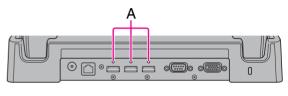
- IC カードが挿入されているときは、RFID の読み取り時間が通常より長くなります (➔ 59 ページ)。

USB 機器の取り付け／取り外し

USB 機器をクレードルの USB ポートに接続することができます。
USB 機器を使用する場合は、クレードルの電源端子に本機の専用 AC アダプターを接続してください。

■ USB 機器を取り付ける

1 USB 機器を USB ポートに接続する。

このクレードル専用のケーブルを使用する場合は、（A）の位置にネジ留めできます。

< クレードルの後面 >

■ USB 機器を取り外す

1 USB 機器の停止処理を行う。

① 画面右下のタスクトレイのをダブルクリックし、USB 機器を選んで [停止] をクリックする。
① 画面の指示に従って操作を行う。
- 次の場合は、この手順は必要ありません。
  - パソコンの電源を切ってから機器を取り外すとき
  - が表示されていないとき
  - 手順 ① で、取り外す機器が一覧にないとき

2 USB 機器を取り外す。

お知らせ

- USB 機器を使うには､ドライバーのインストールが必要な場合があります。詳しくは画面の表示または USB 機器の取扱説明書をご覧ください。
- USB 機器を別の USB ポートに接続し直すときは、ドライバーのインストールが再度必要になる場合があります。
- USB 機器が接続されていると、スリープや休止状態に正常に入れない場合があります。パソコンが正常に起動しない場合は、USB 機器を取り外し、パソコンを再起動してください。
- パソコンのスイッチを入れたまま USB 機器を抜き挿しすると、 がデバイスマネージャに表示され、機器が正しく認識されないことがあります。その場合は、機器を再度抜き挿しするか、パソコンを再起動してください。
- USB 機器が接続されていると、電力消費量が増加します。

■ USB ポートを無効にする

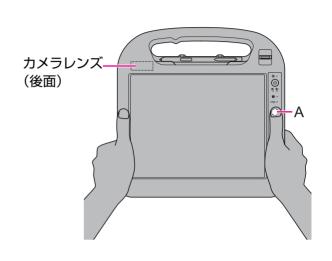
セットアップユーティリティで、クレードルの USB ポートを無効にすることができます。
セットアップユーティリティの「詳細」で「クレードル USB ポート」を「無効」に設定します（➔ 102 ページ）。

カメラ

< カメラ搭載モデルのみ >
写真を撮ることができます。

1 **パソコンの側面を持ってカメラを向けてください。**

2 **< ヘルスケアモデル >**
カメラボタン（A）を押してカメラを起動させる。
< フィールドモデル（カメラ搭載）>
アプリケーションボタン [A1](A) を押してカメラを起動させる。
プレビューウィンドウを表示します。

3 **< ヘルスケアモデル >**
カメラボタン（A）を押して写真を撮る。
< フィールドモデル（カメラ搭載）>
アプリケーションボタン [A1](A) を押して写真を撮る。
ウィンドウに画像が表示されます。
続けて写真を撮る場合は、カメラボタン（A）を押してプレビューウィンドウを表示させて、もう一度カメラボタン（A）を押して写真を撮ってください。

4 **写真を操作する**
写真を 2 枚以上撮った場合は、スクロールバーで写真を選んで以下の操作を行ってください。
- 画像を保存する

① [保存] をクリックし、保存場所を指定し、ファイル名を付けて [保存] をクリックする。
- クリップボードに画像をコピーする

① [クリップボードにコピー] をクリックする。
- 画像を削除する

① [削除] をクリックし、[はい] をクリックする。

5 **[閉じる] をクリックし、ウィンドウを閉じる。**

Panasonic カメラユーティリティをインストールする

カメラは、特別な設定をすることなくご購入後すぐに使用することができますが、写真撮影の設定を変更したり、動画を撮影したりすることができる Panasonic カメラユーティリティをインストールして使用することもできます。
Panasonic カメラユーティリティは、写真と動画を撮るための設定を変更することができます。

Panasonic カメラユーティリティのインストール方法は以下のとおりです。

1. **コンピューターの管理者の権限で Windows にログオンする。**
2. **[スタート] をクリックし、[ファイル名を指定して実行] に [c:￥util￥pcam￥setup.exe] と入力し、[OK] を押す。**
   画面の指示に従ってください。
3. **[スタート] をクリックし、[ファイル名を指定して実行] に [c:￥util￥lightsw￥setup.exe] と入力し、[OK] を押す。**
   画面の指示に従ってください。

Panasonic カメラユーティリティを起動する

写真や動画の撮影を行うため、Panasonic カメラユーティリティを起動します。

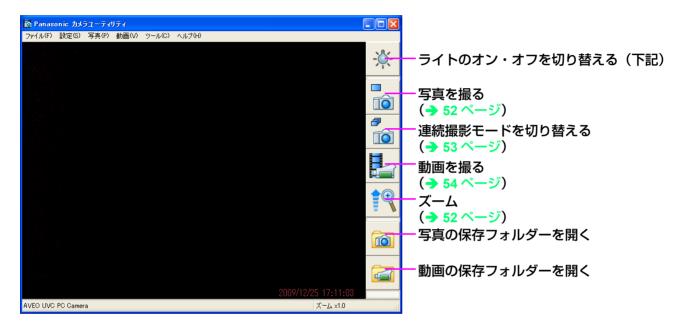
1. **[スタート] -［すべてのプログラム］-［Panasonic］-［Panasonic カメラユーティリティ］をクリックする。**

お知らせ

- 本ユーティリティと他のマルチメディア用アプリケーションソフトを同時に使用すると、エラーが発生する場合があります。その場合は、本ユーティリティを含むすべてのマルチメディア用アプリケーションソフトを終了し、本ユーティリティを再起動してください。
- エラーメッセージが表示され、画面に何も表示されなくなった場合は、本ユーティリティを再起動してください。
- 複数のユーザーがユーザー簡易切り替え機能を使って、本ユーティリティを使用することはできません。
- スタンバイや休止状態からリジュームした場合、エラーメッセージが表示され、本ユーティリティが終了することがあります。その場合は、あらためて本ユーティリティを起動してください。

写真を撮る

写真を撮る

- ライトのオン・オフを切り替える（下記）
- 写真を撮る
（➔ 52 ページ）
- 連続撮影モードを切り替える
（➔ 53 ページ）
- 動画を撮る
（➔ 54 ページ）
- ズーム
（➔ 52 ページ）
- 写真の保存フォルダーを開く
- 動画の保存フォルダーを開く

■ ライトのオン・オフを切り替える

ライトのオン・オフを切り替えます。

1 **をクリックするか、［ツール］-［カメラライト］をクリックし、［オン］あるいは［オフ］をクリックする。**

- ライトがオンのときは、アイコンが に変わります。
- この機能をアプリケーションボタンやタブレットボタンに登録することができます。
（➔ 57 ページ「ライトのオン・オフ / ズーム / 写真撮影機能をアプリケーションボタンに登録する」）
- 一定の時間が経過すると自動的にライトが消えます。［ツール］-［カメラライト］-［設定］をクリックし、好みの時間に設定してください。
- バッテリーと LED の保護のため、長時間ライトをオンにしたままにしないでください。

■ ズーム

画像を拡大 / 縮小します。

1 をクリックするか、［ツール］-［ズーム］をクリックして［x 1.0］、［x 1.5］、［x 2.0］、［x 2.5］、［x 3.0］の中から選ぶ。

- この機能をアプリケーションボタンに割り当てることができます。（➔ 57 ページ「ライトのオン・オフ / ズーム / 写真撮影機能をアプリケーションボタンに登録する」）
- を押すごとに、ズーム倍率が［x 1.0］、［x 1.5］、［x 2.0］、［x 2.5］、［x 3.0］の順に変わります。［x 1.0］に戻すには、［x 3.0］のときに をクリックしてください。
- 画面を上下にドラッグすると、画像を拡大 / 縮小することができます。

■ 写真を撮る

カメラの画像を静止画として保存できます。

1 被写体にカメラを向け、ズーム（上記）、画質（➔ 56 ページ）を調節します。

2 をクリックするか、［写真］-［写真を撮る］をクリックする。

- 撮影中は、アイコンが に変わります。
- この機能をアプリケーションボタンに登録できます。（➔ 57 ページ「ライトのオン・オフ / ズーム / 写真撮影機能をアプリケーションボタンに登録する」）

お知らせ

- をクリックするか保存したフォルダーをエクスプローラーで開くと、撮影した写真を確認できます。（初期設定では保存先はマイ ピクチャに設定されています。）
- カメラと被写体の距離が近すぎる場合、焦点が合わないことがあります。
- ライト点灯中に写真を撮影すると、ライトの点灯時間が「自動オフ設定」の時間設定（➔ 51 ページ）にリセットされます。

■ 連続撮影モードを切り替える

一定の間隔で連続撮影することができます。

1 **をクリックするか、[写真] - [連続撮影を開始する] をクリックする。**

- 連続撮影中は、アイコンがに変わります。

2 **をクリックするか、[写真] - [連続撮影を停止する] をクリックする。**

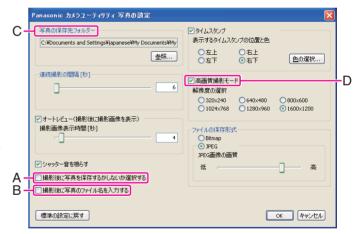
お知らせ

- 連続撮影中は、写真のファイル名を変更したり、保存先を変更したり、保存を取り消したりできません。
  撮影画像のファイル名は初期設定では写真撮影時の日時になります。

撮影の設定を変更する

1 **[写真] - [設定] をクリックする。**

2 **好みの設定に変更し、[OK] をクリックする。**

- (A) のみにチェックマークを付けたとき：撮影後に写真を保存するかしないか選択する
- 撮影後に写真を保存するアイコン ( ) と写真を保存しないでプレビューに戻るアイコン ( ) が表示されます。写真のファイル名は写真撮影時の日時になります。
- (B) のみにチェックマークを付けたとき：撮影後に写真のファイル名を入力する
- 撮影後に Windows のファイル名を入力する機能を使ってファイル名を付けて保存できます。写真は「キャンセル」を選べば削除できます。
- (A) と (B) にチェックマークを付けたとき：撮影後に写真を保存するかしないか選択し、写真のファイル名を入力する
- 撮影後に写真を保存するアイコン ( ) と写真を保存しないでプレビューに戻るアイコン ( ) が表示されます。画像は写真を保存するアイコン ( ) をクリックしたあと、Windows のファイル名を入力する機能を使ってファイル名を付けることができます。

お知らせ

- （C）で、外付けの記録デバイスを保存先に指定した場合、本ユーティリティの動作が遅くなることがあります。その場合は、本機内蔵のハードディスクを保存先に指定してください。
- （D）にチェックマークを付けると、高画質の画像を撮影するとこができます。本ユーティリティのウィンドウに表示しているプレビュー画像の大きさにかかわらず、選択した解像度で撮影することができます。
  - この機能を有効にすると、画像の保存に時間がかかります。
  - この機能を無効にすると、［カメラ設定］で選んだ解像度で保存されます。（➔ 56 ページ）

動画を撮る

■ 動画を撮る

1 をクリックするか、［動画］ - ［動画の撮影を開始する］をクリックする。

撮影中は、アイコンがに変わります。

2 をクリックするか、［動画］ - ［動画の撮影を停止する］をクリックする。

お知らせ

- 動画撮影中は、ズーム機能やタイムスタンプ機能は使えません。
- カメラと被写体の距離が近すぎる場合、焦点が合わないことがあります。
- 外付けの記録デバイスを保存先に指定した場合、本ユーティリティの動作が遅くなることがあります。その場合は、本機内蔵のハードディスクを保存先に指定してください。
- 動画は、［カメラ設定］で設定した解像度で保存されます（➔ 56 ページ）
- 音声を記録するには外付けのマイクを接続してください。
- Windows の画面を回転して使用していると、画像が正しく表示されません。動画の撮影中は Windows の画面を回転して使用しないでください。

動画撮影時の設定を変更する

1 **［動画］-［設定］をクリックする。**

2 **好みの設定の変更を行い［OK］をクリックする。**

- （A）のみにチェックマークを付けたとき：撮影後に動画を保存するかしないか選択する
  撮影後に動画を保存するアイコン（ ）と動画を保存しないでプレビューに戻るアイコン（ ）が表示されます。
  動画のファイル名は動画撮影時の日時になります。
- （B）のみにチェックマークを付けたとき：撮影後に動画のファイル名を入力する
  撮影後に Windows のファイル名を入力する機能を使ってファイル名を付けて保存できます。動画は「キャンセル」を選べば削除できます。
- （A）と（B）にチェックマークを付けたとき：撮影後に動画を保存するかしないか選択し、動画のファイル名を入力する
  撮影後に動画を保存するアイコン（ ）と動画を保存しないでプレビューに戻るアイコン（ ）が表示されます。動画は動画を保存するアイコン（ ）をクリックしたあと、Windows のファイル名を入力する機能を使ってファイル名を付けることができます。

各種設定

■ 音声の設定をする
オーディオ機器がクレードル経由で接続されている必要があります。
［オーディオ調整］で好みの音質に設定できます。

1 **[設定] - [オーディオ調整] をクリックする。**

お知らせ

- [オーディオ調整] を設定するには、外部マイクを接続してください。
- デバイスによっては設定できない項目があります。

■ 画質の設定をする

[画質調整] で好みの画質に設定できます。

1 **[設定] - [画質調整] をクリックする。**

■ 圧縮方式 / 解像度を設定する

1 **[設定] - [カメラ設定] をクリックする。**

- [色空間 / 圧縮] 画像の圧縮方式を設定します。
- [出力サイズ] 解像度を設定します。

お知らせ

- [出力サイズ] は、パソコンの画面解像度の範囲内で設定してください。(『取扱説明書』の「仕様ー表示方式」を参照してください。)
- [出力サイズ] を設定すると、[フレーム率] は設定に合わせて自動的に変更されます。
- デバイスによっては、設定できない項目があります。

■ ライトのオン・オフ / ズーム / 写真撮影機能をアプリケーションボタンに登録する

カメラライト / ズーム / 撮影機能をアプリケーションボタン (A) に登録することができます。

< ヘルスケアモデル（バーコードリーダー非内蔵）>　**< フィールドモデル >**

1　**アプリケーションボタン設定ユーティリティを起動する。**

[スタート] - [すべてのプログラム] - [Panasonic] - [アプリケーションボタン設定] をクリックします。

2　**[アプリケーションの起動] を選択し、カメラライト / ズーム / 撮影機能を割り当てるために以下を入力する。**

〈「ライトのオン・オフを切り替える」機能を登録する場合〉（➔ 51 ページ）

[プログラムの場所 :] ボックス内に

[c:￥program files￥panasonic￥lightsw￥lightsw.exe] を入力する。

〈「ズーム」機能を登録する場合〉（➔ 52 ページ）

[プログラムの場所 :] ボックス内に

[c:￥program files￥panasonic￥panasonic camera utility￥pcam.exe] を入力し、[プログラムのパラメータ :] ボックス内に [/zoom_in] を】入力する。

〈「写真を撮る」機能を登録する場合〉（➔ 52 ページ）

[プログラムの場所 :] ボックス内に

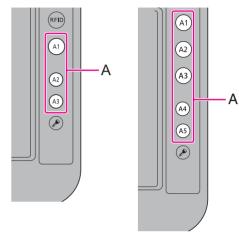
[c:￥program files￥panasonic￥panasonic camera utility￥pcam.exe] を入力し、[プログラムのパラメータ :] ボックス内に [/shutter] を入力する。

〈ファイル名を指定して「写真を撮る」機能を登録する場合〉（➔ 52 ページ）

[プログラムの場所 :] ボックス内に

[c:￥program files￥panasonic￥panasonic camera utility￥pcam.exe] を入力し、[プログラムのパラメータ :] ボックス内に [/shutter_name] を入力する。

3　**[OK] をクリックする。**

お知らせ

- 本ユーティリティが起動していないときに、「ズーム」機能や「写真を撮る」機能が登録されているボタンを押すと本ユーティリティが起動します。
- 「写真を撮る」機能を登録して実行したときは、「撮影の設定を変更する」（➔ 53 ページ）でチェックマークが（A）（B）ともになしの状態と同じ動作をします。
- ファイル名を指定して「写真を撮る」機能を登録して実行したときは、「撮影の設定を変更する」（➔ 53 ページ）でチェックマークが（A）はなし、（B）はありの状態と同じ動作をします。
- カメラボタンに「写真を撮る」機能または「ファイル名を指定して写真を撮る」機能を登録する場合は、MCA コンフィグレーションエディター（➔ 65 ページ）で次のように登録してください。
  ① [MCA Application] - [Default Handler アクション] - [デフォルト実行ファイル] - [カメラ] をクリックする。
  ② [CA-LaunchApp] に [c:￥program files￥panasonic￥panasonic camera utility￥pcam.exe]、[CA-LaunchAppCmdLine] に [/shutter] または [/shutter_name] を入力する。
  ③ [OK] をクリックする。

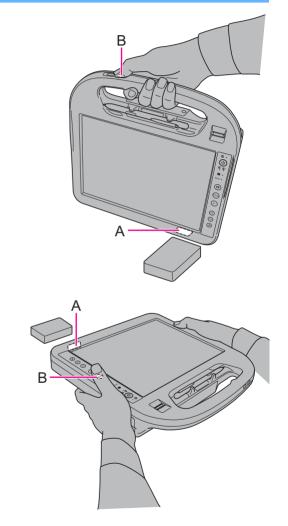
RFID リーダー

<RFID リーダー搭載モデルのみ >
RFID（Radio Frequency Identification の略）タグのデータを読み取ることができます。

お知らせ

- 通常、RFID リーダーは専門のアプリケーションを使用します。詳しくは、システム管理者にご相談ください。

1 **RFID リーダー（A）を RFID タグの中央に向ける。**

2 **RFID リーダーボタン（B）を押す。**
RFID 認証をサポートしているアプリケーションが起動するか、読み取ったデータが画面に表示されます。

お知らせ

- RFID タグによって操作距離は変わります。
- IC カードが挿入されているときは、RFID の読み取り時間が通常より長くなります。

■ 誤操作の防止

ハンドル上ある RFID ボタンが誤って押されることを防止するために、セットアップユーティリティで RFID ボタンを無効することができます。
セットアップユーティリティの「メイン」で「ハンドル側ボタン」を「無効」に設定します (➔ 100 ページ)。

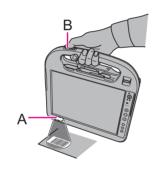
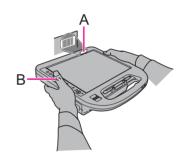
< バーコードリーダー搭載モデルのみ >

読み取り可能なバーコードの種類

Aztec, Codabar, Code11, Code39, Code93, Code128/GS1-128, DataMatrix, GS1Composite, I2 of 5, Maxicode, MSI Code, PDF417, MicroPDF417, Plessey Code, QR Code, GS1 Databar, Telepen, TLC39, UPC/EAN

バーコードを読み取る

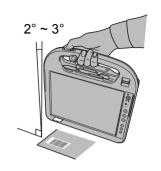
1 **バーコードにリーダーの読み取り窓（A）を向ける。**

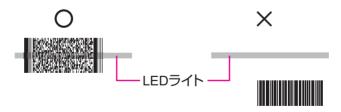
2 **バーコードボタン（B）を押す。**
読み取り位置を示す赤色の LED ライトが点灯します。

水平面でバーコードを読み取る場合

垂直面でバーコードを読み取る場合

■ 誤操作の防止

ハンドル上あるバーコードリーダーボタンが誤って押されることを防止するために、セットアップユーティリティでバーコードリーダーボタンを無効することができます。
セットアップユーティリティの「メイン」で「ハンドル側ボタン」を「無効」に設定します (➔ 100 ページ)。

■ 本機でバーコードを正しく読み取るために以下の点にご注意願います。

- 読み取り時の角度に気を付けてください。
  図のような角度（直角＋ 2° ~ 3°）で読み取ることをお勧めします。

- 大きいバーコードを読み取るときは遠くから、小さいバーコードやバーが細いバーコードを読み取るときは近くから操作してください。
- LED ライトがバーコード全体にかかるようにして読み取ってください。

- バーコードが LED ライトの中央からずれていても、読み取りは可能です。ただし、バーコードが LED ライトの中から少しでもはみ出してしまうと、読み取れなくなります。バーコードを完全に LED ライトの中に入れるようにしてください。

ソフトウェアモードとハードウェアモードについて

本機はソフトウェアモードとハードウェアモードの 2 つのバーコード読み取りモードに対応しています。
バーコード読み取り機能が付いているアプリケーションをお使いの場合は、ハードウェアモードに設定してください。
バーコード読み取り機能が付いていないアプリケーションをお使いの場合でも、本機をソフトウェアモードに設定することで、バーコード読み取り機能を使用することができます。

■ 読み取りモードを切り替える

1. **セットアップユーティリティを起動する（➔ 98 ページ）。**
2. **「詳細」を選択する。**
3. **「シリアルポート設定」を選択し、↵を押す。**
   サブメニューが表示されます。
4. **「バーコードリーダー」が「有効」になっていることを確認する。**
   「有効」になっていない場合は、「有効」に設定してください。
5. **「トリガーモード」をソフトウェアモードの場合は「ソフトウェア」に、ハードウェアモードの場合は「ハードウェア」に設定する。**
6. **↵を押す。**
7. **F10 を押し「はい」を選択し、↵を押す。**
   以下のメッセージのどちらかが表示されます。
   - [バーコードリーダーの設定をセットアップユーティリティの設定にあわせ、ハードウェアトリガモードに変更します。よろしいですか]
   - [バーコードリーダーの設定をセットアップユーティリティの設定にあわせ、ソフトウェアトリガモードに変更します。よろしいですか]
8. **[はい] をクリックする。**
9. **[OK] をクリックする。**

■ 使用環境に合わないモードに設定された場合

セットアップユーティリティの「終了」で「デフォルト設定」を選択して「設定を保存して再起動」を行った場合など、本機が使用環境に合っていないモードに意図せずに設定されることがあります。
その場合、[セットアップユーティリティ、バーコードリーダーは現在ハードウェアトリガモードに設定されています。設定を変更しますか]、または [セットアップユーティリティ、バーコードリーダーは現在ソフトウェアトリガモードに設定されています。設定を変更しますか] のメッセージが表示されますので、もう一度セットアップユーティリティを起動し、正しい設定をしてください。

お知らせ

- 手順 **7** で [いいえ] を選択した場合、[バーコードリーダーとセットアップユーティリティの設定が一致していません。バーコードリーダーが正しく動作しない可能性があります。セットアップユーティリティの設定を確認してください。] と表示されます。
- セットアップユーティリティを起動し (➔ 98 ページ)、使用環境に合った設定を選択してください。
  ➔ 63 ページ 読み取りモードを切り替える
- パソコンが設定の切り替えに失敗した場合、[バーコードリーダーの設定に失敗しました。バーコード関連のアプリケーションを終了してからリトライを行ってください。] と表示されます。
- バーコードリーダーを使用しているすべてのアプリケーションを終了し、[リトライ] をクリックしてください。
- それでも問題が解決しない場合は、パソコンを再起動してください。
- [初期化に失敗しました。] と表示された場合は、パソコンを再起動してください。

読み取り窓のお手入れ

水に浸した柔らかい布または綿棒で軽く汚れをふき取ってください。
紙やすりや金属などは、読み取り窓に触れないようにしてください。読み取り窓に傷が付く場合があります。
水や洗剤、アルコールなどを直接かけないでください。

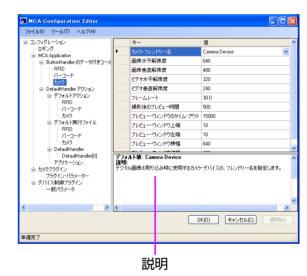
読み取り窓以外は、付属の『取扱説明書』の「取り扱いとお手入れ」をご覧ください。

MCA コンフィグレーションエディター

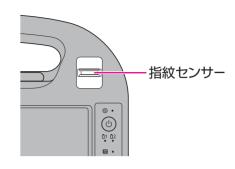
MCA コンフィギュレーションエディターを使用して、カメラ、RFID リーダー、およびバーコードリーダーの設定を変更することができます。

MCA コンフィグレーションエディターを使用する

1 **[スタート] - [すべてのプログラム] - [Intel] - [MCA Platform Driver] - [MCA Configuration Editor] をクリックする。**

2 **[MCA Configuration Editor] 画面で変更したい項目を選び、説明を読んだ後、変更の必要があれば設定を変更する。**

お知らせ

- 誤操作などにより、意図しない設定に変更された場合、[ツール] - [最後に保存した正しい設定をリストアする] をクリックして直前の状態に戻すか、[ツール] - [デフォルト値のリストア] をクリックしてデフォルト設定に戻してください。

指紋センサー

お知らせ

- 指紋の特徴や状態により、登録および認証ができない場合があります。

■ 指紋センサーを使うには

指紋を登録・認証するときは、以下のように行ってください。

1 指をスライドさせる。

- 読み取りエラーを防ぐには

①指の第一関節から上の部分をセンサーの上に置く。(右図参照)

②第一関節から指先までが指紋センサーの上を通るように指をスライドさせる。

- 上下どちらからスライドさせても読み取れます。

- 以下のような場合は、指紋の登録・認証ができないことがあります：
  - 指をスライドするのが速すぎる、または遅すぎる
  - 指が汚れている、または指に傷がある
  - 指がぬれている、または極度に乾いている
  - 指紋に個人を特定するための十分な情報がない

  詳しくは、「指紋センサー」(➔ 122 ページ)をご参照ください。

お願い

- 指紋センサーの誤った使用から生じる損失や故障、または指紋センサーの不具合などによるデータ消失に対して、当社は一切責任を負いません。

概要

指紋認証について

従来のセキュリティシステムでは、ユーザーを認証するために、ID・パスワードや IC カードなどを使用します。しかしこれらでは、紛失や盗難、ハッキングの危険があります。
指紋認証は、指紋をパスワードに使う方法です。パソコンをスタートさせたり Windows にログオンしたりするために、自分の指紋を使うことができます。
TPM（内蔵セキュリティチップ）と組み合わせて指紋センサーを使用することにより、お使いのパソコンのセキュリティレベルを高くすることをお勧めします。

インストール手順

管理者権限でパソコンを使う場合

手順1
TPMのインストール （『内蔵セキュリティチップ（TPM）ご利用の手引き』をご覧ください。） （TPMを使っていない場合は、このステップを飛ばしてください。）

手順2
Protector Suite QLのインストール

手順3
TPM指紋ユーティリティの初期化 （TPMを使っていない場合は、このステップを飛ばしてください。）

各ユーザーがパソコンを使う場合

手順4
ユーザーの指紋を登録する ユーザーのデータ ・Windowsログオンパスワード ・指紋 ・指紋バックアップパスワード ・パワーオンパスワード

■ ヘルプにアクセスするには

本書には、手順 2、3 および手順 4 の最初の部分が記載されています。
詳しくは、Protector Suite QL Help メニューをご覧ください。
- [スタート] - [すべてのプログラム] - [Protector Suite QL] - [ヘルプ] をクリックする。

使用上のお願い

■ セキュリティ機能について

- 指紋認証機能は、本人認証と識別を完全に保証するものではありません。指紋認証を使ったこと、または使えなかったことにより発生した損害については、当社では一切責任を負いかねます。
- 指紋認証方法は、複数の指紋、暗号化キー、証明データ、パスワードを使います。指紋が使用できなくなったり、暗号化キー、証明データ、パスワードを失ったりすると、データを使うことができません。指紋認証データは安全な場所にバックアップしてください。詳しくは、「バックアップ」（➔ 72 ページ）をご覧ください。
- 他社製アプリケーションソフトとの相互運用への保証はありません。

インストール

1 TPM をインストールする。

『内蔵セキュリティチップ （TPM）ご利用の手引き』をご覧ください。
[スタート] - [ファイルを指定して実行] をクリックし、「c:¥util¥drivers¥tpm¥readme.pdf」と入力して、[OK] をクリックする。

- TPM を使用しない場合、この手順は不要です。

2 Protector Suite QL をインストールする。

① コンピューターの管理者の権限でログオンする。
② 他のプログラムを閉じる。
③ [スタート] - [ファイル名を指定して実行] をクリックし、「c:¥util¥drivers¥fngprint¥install¥setup32.exe」と入力して、[OK] をクリックする。
④ [次へ] をクリックする。
インストールが始まります。画面の指示に従ってください。
⑤「Protector Suite QL *.* は正常にインストールされました。」が表示されたら、[完了] をクリックする。
確認メッセージが表示されたら、[はい] をクリックしてください。
パソコンが再起動します。
⑥ コンピューターの管理者の権限で Windows にログオンする。
画面右下のタスクトレイに （Protector Suite QL）が表示されます。

3 TPM 指紋ユーティリティを初期化する。

コンピューターの管理者の権限でログオンしてください。
画面右下のタスクトレイの （Protector Suite QL）をクリックすると、メッセージが表示されます。

- TPM を使っていない場合は、この手順は不要です。

① メッセージをクリックし、[拡張セキュリティ初期化ウィザード] を開始してください。
以降、画面の指示に従って操作してください。

お知らせ

- 「無効な TPM 状況」のメッセージが表示されない場合は、下記の操作を行ってください。
  - [スタート] - [すべてのプログラム] - [Protector Suite QL] - [コントロールセンター] - [設定] - [システム設定] - [TPM] - [TPM を初期化] をクリックする。

4 ユーザーの指紋登録をする。

それぞれのユーザーで行ってください。

① [スタート] - [すべてのプログラム] - [Protector Suite QL] - [ユーザー登録] をクリックする。

② ライセンス同意文をよく読み、[使用許諾契約書に同意します] を選択して [OK] をクリックする。

③ [次へ] をクリックする。

④ 登録モードを選び、[完了] をクリックする。

- 登録モードの設定
  ここでは、登録の設定を一度だけ行えます。
  - バイオメトリックスデバイスへの登録
    指紋データは直接指紋センサーに登録されます。指紋センサーに内蔵されたハードウェア保護機能により登録データは安全に保管されます。画面に利用可能な指紋の数が表示されます。
  - ハードディスクへの登録
    指紋データはハードディスクに保存します。ハードウェア保護機能は利用できませんが、登録できる指紋の数に制限はありません。
- 「完了」画面が表示されたら、説明をよくお読みください。
- 「ユーザー登録」ウィザードが起動します。画面の指示に従ってください。

お知らせ

- 少なくとも 2 本の指を登録してください。1 つのデータが破損した場合でも、別の登録データでアカウントとシークレットデータにアクセスすることができます。登録について詳しくは、「指紋センサーを使うには」（➔ 66 ページ）および「指紋チュートリアル」（下記の方法でアクセスできます）をご覧ください。
  - [スタート] - [すべてのプログラム] - [Protector Suite QL] - [指紋チュートリアル] をクリックする。

- パワーオンセキュリティを使うことをお勧めします。この機能は、ユーザーのパソコンが不正にアクセスされることをBIOSレベルで防ぎます。
  最初の指紋を登録した後、[パワーオンセキュリティ] メッセージが表示されます。[はい] を選択してください。
  ① [パワーオンセキュリティ] 画面が出たら、[パスワードを管理します] をクリックする。
  ② [パスワードのタイプ] の [パワーオン] をクリックし、[パスワードを設定] をクリックする。
  ③ パワーオンセキュリティのパスワードを入力し、[OK] をクリックする。
  ④ [閉じる] をクリックする。
  ⑤ [パスワードのタイプ] の [パワーオン] にチェックマークを付ける。
  ⑥ パスワード（手順③）を入力し、[OK] をクリックする。
  ⑦ [次へ] をクリックする。
  - 以降、画面の指示に従ってください。

お知らせ

- [パワーオンセキュリティ] を使用すると、選択された登録モードにかかわらず、指紋は指紋センサーに登録されます。利用可能な指紋の数が画面に表示されます。
- パワーオンセキュリティの有効／無効の切り替えは、上記の手順で行ってください。上記の手順でパワーオンセキュリティを無効に設定した場合、セットアップユーティリティ（➔ 105 ページ）で [パワーオンセキュリティ] を [有効] に設定しても、パワーオンセキュリティは機能しません。

セキュリティレベルをさらに高くする

BIOS レベルの設定により、パソコンのセキュリティレベルをさらに高めることができます。
このセキュリティ機能を使用するときは、パソコンを起動させるときにパソコンをクレードルに取り付けて、外部キーボードをクレードルに接続しておく必要があります。

準備
パソコンをクレードルに取り付けて、外部キーボードをクレードルに接続してください。

1 スーパーバイザーパスワードを登録する。

次の手順に従ってスーパーバイザーパスワードを登録してください。
すでにスーパーバイザーパスワードを登録してある場合は、この手順を省略し、手順 2 に進んでください。
スーパーバイザーパスワードを登録していない場合、Protector Suite QL を使って指紋が登録されており、かつパワーオンセキュリティが有効なときは、下記手順 ② の後に指紋認証が必要になります。

① パソコンの電源を入れる。または再起動する。
② パソコンが起動を始めた後、[Panasonic] 起動画面が表示されている間に F2 または Del を押す。
③「セキュリティ」メニューを選ぶ。
④「スーパーバイザーパスワード設定」を選び、↵ を押す。
⑤「新しいパスワードを入力してください」にパスワードを入力し、↵ を押す。
- パスワードは画面に表示されません。
- 入力できる文字は、半角の英数字（スペースを含む）で最大 32 文字です。
- 大文字／小文字は区別されません。
- Shift と Ctrl は使用できません。

⑥「新しいパスワードを確認してください」に再度パスワードを入力し、↵ を押す。

2 高度セキュリティを設定する。

①「指紋セキュリティ」を選択し、↵ を押す。
②「パワーオンセキュリティ」の「有効」を選択する。
③「セキュリティモード」を選択し、「高度」を選ぶ。
- 初期設定：簡易

④ Esc を押し、サブメニューを閉じる。
⑤ F10 を押し、「はい」を選び、↵ を押してセットアップユーティリティを終わる。

お知らせ

- 「高度」セキュリティモードでは、指紋認証をした後でも、スーパーバイザーパスワードまたはユーザーパスワードの入力が必要になります。「簡易」セキュリティモードでは必要ありません。

上手にお使いいただくために

バックアップ

指紋データや認証情報などは、パスポートというファイルに記録されます。アクシデントによるデータ消失を防ぐために、このパスポートファイルをリムーバブルディスクやネットワークドライブなど、安全な場所に定期的にバックアップされることをお勧めします。内部ハードディスクドライブに保存すると、指紋認証セキュリティの安全性が低くなります。
また、バックアップパスワードがあれば、いざというときに指紋認証を回避することができます。「ユーザー登録」ウィザードを使ってバックアップパスワードを設定されることをお勧めします。バックアップパスワードを設定しなかった場合は、認証機器の故障によるデータ消失のおそれがあります。

- 各ユーザーが使用するファイル
  - ユーザーパスポートデータのバックアップ
    （初期名：< ユーザーアカウント >.vtp）
    埋め込み指紋認証チップやハードディスクドライブの交換、または Windows の再インストールを行った場合にこのファイルが必要です。
    パスポートファイルには、指紋、暗号化キー、ログオン認証のデータが含まれています。

お知らせ

- バックアップするには
  ユーザーデータを保存するために [ユーザーデータをインポート/エクスポート] の [エクスポート] を選んでください。
  - [スタート] - [すべてのプログラム] - [Protector Suite QL] - [コントロールセンター] - [指紋] をクリックする。

  詳しくは、ソフトウェアのヘルプ（➔ 67 ページ）をご覧ください。

- 各ユーザーが使うパスワード
  - 登録のためのバックアップパスワード
    バックアップパスワードは、機器の故障などのとき指紋認証を回避するのに役立ちます。

お願い

- その他のパスワードも、セキュリティに使用しますので、消失しないようにしてください。詳しくは、ソフトウェアのヘルプ（➔ 67 ページ）をご覧ください。

使用制限

- パスワードバンク [*1] 制限：以下の Web ページはサポートされません。
  以下の技術で作成された Web ページ
  - Java スクリプトを使って自動生成された Web フォーム。
  - 1 つのフォーム（ログインフィールド、パスワードフィールドなど）に見えるが、内部的には 2 つの独立したフォームで作成された Web フォーム。
  - 送信ボタンのない Web フォームでは自動送信のトラブルが起きる場合があります。↵ で送信できないすべてのフォームでは、パスワードバンクで入れますが、送信はできません。
- パスワードバンク [*1] 制限：以下の Windows アプリケーションはサポートされません。
  - 標準の Windows コントロールを使わず、独自のコントロールで作成されたアプリケーション。
  - Java ベースのアプリケーションを含むもの。

*1 この機能については、ソフトウェアのヘルプ（➔ 67 ページ）をご覧ください。

指紋センサーの取り扱いについて

- 登録と認証の感度は、以下のような状況によって変化します。センサー表面の汚れや湿気を乾いた柔らかい布でふき取ってください。
  - 指紋センサー表面が、ごみ、皮脂油、汗などで汚れている
  - 指紋センサー表面が、湿気や結露によって湿っている
- 静電気によってセンサーが誤動作する場合があります。指紋センサーに触れる前に金属の表面に触れるなどして、指から静電気を取り除いてください。特に冬や他の乾燥状態での静電気にご注意ください。
- 動作不良や故障が発生するとき：
  - 指紋センサー表面が、固いもので擦られたり、引っかかれたり、または先のとがったものでつつかれたために傷が付いたりしている。
  - センサーが汚れた指で触られたり、小さな物体による損傷で表面にしみが付いている。
  - センサー表面がシールで覆われたり、インクで汚れたりしている。

所有者データの消去（初期化）

パソコンを廃棄したり他の人に譲渡したりする場合は、不正なアクセスを避けるために所有者データを消去（初期化）してください。

お知らせ

- 指紋センサーに登録されたデータは画像データではありません。指紋センサーに登録されたデータから指紋画像データを再生することはできません。

1 パワーオンセキュリティを無効にする。

コンピューターの管理者の権限でログオンする。

① [スタート] - [すべてのプログラム] - [Protector Suite QL] - [コントロールセンター] をクリックする。
  - 「指紋コントロールセンター」画面が表示されます。

② [設定] をクリックし、[パワーオンセキュリティ] をクリックする。

③ [コンピュータの起動に指紋を使用する] のチェックマークを外し、[OK] をクリックする。

④ [指紋] をクリックし、[指紋の登録または編集] をクリックする。
  - [ユーザー登録] 画面が表示されます。画面の指示に従ってください。

⑤「ユーザーの指紋」画面が表示されたら、指紋サンプルを消さずに [次へ] をクリックする。

⑥ [パスワードを管理します] をクリックする。

⑦ [パスワードのタイプ] の [パワーオン] を選び、[パスワードを未設定] をクリックする。

⑧ パワーオンセキュリティのパスワードを入力し、[OK] をクリックする。

⑨ [閉じる] をクリックする。
  - [パスワードのタイプ] に何も項目がないことを確認してください。

⑩ [次へ] - [次へ] をクリックする。

⑪ [完了] をクリックする。
  - 画面の指示に従ってください。

2 指紋データを削除する。

各ユーザーで行ってください。

① [指紋] をクリックし、[削除] をクリックする。
「指の読み取り」画面が表示されます。

② ユーザーの指をスキャンする。
  - 認証に成功すると、確認メッセージが表示されます。

③ [はい] をクリックする。
  - ユーザーデータが削除されたことを確認してください。

お知らせ

- 登録モードが「ハードディスクへの登録」(➔ 69 ページ)に設定されている場合は、手順 **2** の後に指紋データを削除することが必要です。
  コンピューターの管理者の権限で行ってください。
  ① [スタート] - [すべてのプログラム] - [Protector Suite QL] - [コントロールセンター] をクリックする。
  ② [設定] をクリックし、「パワーオンセキュリティ」をクリックする。
  ③ 指紋を選び、[削除] をクリックする。
  - すべての指紋を確実に削除してください。

3 **Protector Suite QL をアンインストールする。**

コンピューターの管理者の権限でログオンする。

① すべてのプログラムを閉じる。

② [スタート] - [コントロールパネル] - [プログラムの追加と削除] をクリックする。

③ [Protector Suite *.*] をダブルクリックし、[変更] をクリックする。

④ [削除] を選ぶ。

⑤ [全ての Protector Suite *.* のデータを削除する] を選び、[次へ] をクリックする。
- アンインストールが始まります。画面の指示に従ってください。

⑥ アンインストール終了のメッセージが表示されたら [完了] をクリックする。
- 確認メッセージが表示された場合は、[はい] をクリックしてください。
- パソコンが再起動します。

所有者データの再登録

「困ったときは（詳細編）」で指紋センサーの問題（→ 122 ページ）が解決しない場合は、所有者データを消去し、再登録することで解決する場合があります。ただし、パスワード、シークレットキー、および指紋データは消失します。

① コンピューターの管理者の権限で Windows にログオンする。
- Windows ログオンパスワードで常にパソコンにアクセスできます。
  便利モードでは、どのユーザーも Windows ログオンパスワードでパソコンにアクセスできます。

② 次回、パスワード、シークレットキーや登録した指紋を使う予定がある場合は、パスポートをファイルに書き出す。
- すでに最新のパスポートを書き出している場合は、この手順は不要です。
- バイオメトリックス認証で指が認識されたら、「ユーザーデータをインポート/エクスポート」画面を使って指をスキャンし、画面の指示に従って操作を続けてください。
- バイオメトリックス認証で指が認識されない場合は、「ユーザーデータをインポート/エクスポート」画面を表示させ、指紋認証なしでパスポートを書き出すことができます。この場合は指紋ダイアログをキャンセルすることが必要で、パスワードを要求されます。[拡張セキュリティ] を使わない場合は、Windowsログオンパスワードを入力してください。または、[拡張セキュリティ] バックアップパスワードを入力してください。

お願い

- バックアップパスワードなしで [拡張セキュリティ] を使う場合、データをバックアップする方法はありません。
  - バイオメトリックス認証が動作しない場合は、データをバックアップする方法はありません。

③ パスポートの削除
- [削除] 画面を使います。保存されたデータ（パスワード、[File Safe] 暗号化キー）が消失しますのでご注意ください。
  データをバックアップしてある場合は、次の手順で復元できます。データをバックアップしていない場合は完全に消失します。
  削除操作を行うには、指紋確認操作をキャンセルしてパスワードダイアログを表示させて、Windowsログオンパスワードかバックアップパスワードを入力してください。

④ 指紋センサーが動作していることを確かめる。
- チュートリアル画面を使って、指紋センサーの動作を確認してください。動作しない場合は、再起動して再度行ってください。それでも動作しない場合は、当社ご相談窓口にご相談ください。

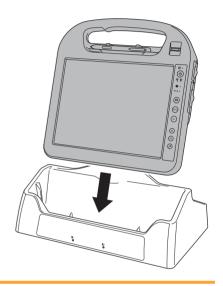
⑤ パスポートを復元または作成する。
- データをバックアップしてある場合はすぐ、[ユーザーデータをインポート/エクスポート] を使ってデータを復元してください。または、[指紋の登録または編集] を使って新しいパスポートを作成してください。

本機をクレードル（別売り）に取り付けることで、いろいろな周辺機器を接続できるようになります。
クレードルに付属の取扱説明書もあわせてご覧ください。

■ パソコンをクレードルに取り付ける

1 **パソコンの電源を切る。**
- スタンバイや休止状態に入らないでください。

2 **クレードルの電源端子に AC アダプターを接続する。**

3 **LCD 側を手前にして、パソコンをクレードルの上から挿入する。**

お願い

- 電源オン時やスタンバイ・休止状態でクレードルに取り付けたり取り外したりすることはできません。
- コネクターが汚れていたらブラシなどで汚れを払い落としてください。また、水分が付着したらふき取ってください。接触不良の原因になります。

■ USB ポートを無効にする

セットアップユーティリティで、クレードルの USB ポートを無効にすることができます。
セットアップユーティリティの「詳細」で「クレードル USB ポート」を「無効」に設定します（➔ 102 ページ）。

外部ディスプレイ

クレードル接続時に、画面の表示先を外部ディスプレイに切り替えることができます。
パソコンの電源を入れる前に、外部ディスプレイをクレードルの外部ディスプレイコネクター（A）に接続し、AC アダプターをクレードルの電源端子（B）に接続してください。

＜クレードルの後面＞

お知らせ

- スタンバイ・休止状態からのリジューム後または再起動後の表示先は、スタンバイ・休止状態に入る前または再起動前と異なる場合があります。
- Windows の起動後に表示先を切り替える場合、切り替えが完了するまでボタン、キーおよび画面に触れないでください。
- Windows が起動するまで（セットアップユーティリティなど）、内部 LCD と外部ディスプレイの切り替えはできません。
- [コマンド プロンプト] を全画面表示にしないでください。
- スタンバイ・休止状態のときに、外部ディスプレイを接続したり取り外したりしないでください。
- 接続するディスプレイによっては、表示の切り替えに時間がかかることがあります。
- 高解像度の外部ディスプレイを使用する場合、[Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for ultra mobile] で [MID] に切り替えると、画面の色や解像度、リフレッシュレートが変更されることがあります。
  [A1] ボタンを押して表示先を切り替えることをお勧めします。
- 外部ディスプレイのみを使用する場合は、内部 LCD のみ、または同時表示をする場合とは別に、外部ディスプレイに適した色数、解像度、リフレッシュレートを設定してください。内部 LCD から外部ディスプレイに切り替えたとき、外部ディスプレイの解像度は内部 LCD の設定と同じになります。再度、解像度を設定してください。
  設定によっては、外部ディスプレイ画面が乱れたり、マウスカーソルが正しく表示されなかったりする場合があります。その場合は設定値を下げてください。
- 同時表示しているときは、DVD-Video、MPEG ファイルなどの動画がスムーズに再生されない場合があります。
- 外部ディスプレイの取扱説明書をよくお読みください。
- プラグアンドプレイに対応していない外部ディスプレイを接続する場合は、下記メニューで適切なドライバーを選択するか、外部ディスプレイに付属のドライバーディスクを使用してください。[スタート] - [コントロールパネル] - [デスクトップの表示とテーマ] - [画面] - [設定] - [詳細設定] - [モニタ] - [プロパティ] - [ドライバ] - [ドライバの更新]
- 画像が正常に表示されない場合は、下記メニューで [ハードウェア アクセラレータ] の値を下げてください。[スタート] - [コントロールパネル] - [デスクトップの表示とテーマ] - [画面] - [設定] - [詳細設定] - [トラブルシューティング]

お願い

- 外部ディスプレイを取り外す前に、表示先を内部 LCD に切り替えてください。切り替えをしないと、取り外す前と後で画質が異なる場合があります（解像度が正しくないなど）。
- 次の操作を行うと、画面が乱れる場合があります。その場合は、パソコンを再起動してください。
  - 高解像度または高リフレッシュレートに設定した外部ディスプレイを取り外す
  - パソコン操作中に外部ディスプレイの接続や取り外しを行う

表示先を切り替える

1 **< ヘルスケアモデル >**
[A1] ボタン [*1] を押す。
< フィールドモデル >
[ディスプレイ切り替え] がり当てられているアプリケーションボタン [*2] を押す。
押すたびに、以下のように切り替わります。
内部 LCD → 同時表示 → 外部ディスプレイ

[*1] アプリケーションボタンの設定を変えることができます。（→ 17 ページ）

[*2] アプリケーションボタンの割り当てを確認したり変更するときは、[アプリケーションボタン設定] をお使いください（→ 17 ページ）。

拡張デスクトップモードを使う

拡張デスクトップモードでは、内部 LCD と外部ディスプレイをひと続きの作業領域として使うことができます。内部 LCD と外部ディスプレイとの間で、ウィンドウのドラッグ移動などができます。

1 **[Intel (R) Graphics Media Accelerator Driver for ultra mobile] 画面を表示する。**
[スタート] - [コントロールパネル] - [コントロールパネルのその他のオプション] - [Intel (R) Ultra Mobile GMA Driver] - [ディスプレイデバイス] をクリックする。

2 **[拡張デスクトップ] をクリックし、[プライマリデバイス] と [セカンダリデバイス] を設定する。**

3 **[OK] をクリックする。**
確認メッセージで [OK] をクリックしてください。

お知らせ

- アプリケーションソフトによっては、拡張デスクトップモードを使用できない場合があります。
- 最大化ボタンをクリックすると、どちらか一方のディスプレイに最大表示されます。最大化したウィンドウをもう一方のディスプレイに移動することはできません。
- [A1] ボタンを押してディスプレイを切り替えることはできません。
- 拡張デスクトップモード使用時は画面回転機能を使わないでください。
- Fn キーの組み合わせを押すと表示されるポップアップウィンドウは、プライマリーデバイスにのみ表示されます。
- デュアルタッチを使用しているときは、内部 LCD をプライマリーデバイスとして設定してください。内部 LCD に触れると、プライマリーデバイス上でカーソルが動きます。

クレードル接続時のみ、LAN 機能が使えます。

LAN を接続する

1 **パソコンの電源を切る。**

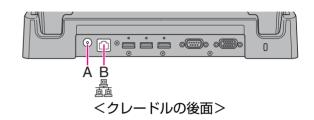
- スタンバイや休止状態に入らないでください。

2 **クレードルの電源端子（A）に AC アダプターを接続する。**

＜クレードルの後面＞

3 **パソコンをクレードルに取り付ける。**

4 **LAN ケーブルを使って、LAN コネクター（B）とネットワークシステム（サーバーやハブなど）を接続する。**

5 **パソコンの電源を入れる。**

無線通信をオン／オフする

無線通信のオン／オフを切り替えるには、次の方法があります。

- 無線切り替えユーティリティを使う（下記）
- セットアップユーティリティの「詳細」メニューの設定を変更する（➔ 102 ページ）
- 無線接続無効ユーティリティで設定する（➔ 83 ページ）

お知らせ

- 無線 LAN について詳しくは：➔ 85 ページ
- Bluetooth について詳しくは：➔ 90 ページ
- ワイヤレス WAN について詳しくは：無線機器の説明書をご覧ください。
- 無線通信を行うためには、セットアップユーティリティの「詳細」-「無線設定」メニューの無線機器（「無線 LAN」／「Bluetooth」／「ワイヤレス WAN」）を「有効」（工場出荷時）に設定してください。（➔ 102 ページ）
- [デバイスマネージャ] で IEEE802.11a 設定を変更すると（➔ 87 ページ）、それに伴い状態表示も変わります。

無線切り替えユーティリティを使う

無線切り替えユーティリティを使うと、画面右下のタスクトレイのポップアップメニューにより無線機器のオン／オフを切り替えることができます。工場出荷時には、すべての無線機器がオンに設定されています。

■ 無線切り替えユーティリティアイコン

画面右下のタスクトレイの無線切り替えユーティリティアイコンは、無線機器の状態を表します。

- ：無線機器がオンのとき
- ：無線機器がオフのとき
- ：無線機器がセットアップユーティリティで無効になっているとき

■ 無線機器を個別にオン／オフする

1 **画面右下のタスクトレイの「無線切り替えユーティリティアイコン」（ または ）をクリックし、ポップアップメニューを表示する。**

2 **無線機器を選んで、オンとオフを切り替える。**

無線接続無効ユーティリティを使う

LAN ケーブルをクレードルに接続してから、パソコンをクレードルに取り付けたときに、自動的に無線接続（無線 LAN ／ワイヤレス WAN）を無効にすることができます。ご使用の前に、以下の手順で無線接続無効ユーティリティをインストールしてください。

無線接続無効ユーティリティをインストールする

1 **コンピューターの管理者の権限で Windows にログオンする。**

2 **[スタート] - [ファイル名を指定して実行] をクリックし、[c:¥util¥wdisable¥setup.exe] と入力し、[OK] をクリックする。**

3 **画面の指示に従って操作を行う。**

無線接続の状態を調べる

お知らせ

- 無線接続無効ユーティリティが正しく動作するためには、無線切り替えユーティリティもインストールされている必要があります。本機では、工場出荷時に無線切り替えユーティリティがインストール済みです。
- 無線接続無効ユーティリティにより、Bluetooth を自動的に無効にすることはできません。

■ 無線接続の状態を確認する

無線接続無効ユーティリティをインストールすると、ログイン時に自動的に起動し、画面右下のタスクトレイにアイコンが表示されます。

：無線接続無効ユーティリティが働いています。
- LAN ケーブルが接続されていて、無線接続は無効になっています。

：無線接続無効ユーティリティが働いています。
- LAN ケーブルが接続されていないので、無線接続が有効になっています。

：次のいずれかの状態です。
- 無線接続無効ユーティリティは LAN ケーブルの接続状態を監視していない

- 無線切り替えユーティリティが起動していない
- 有線 LAN が認識されていないか、デバイスマネージャで無効に設定されている

■ メニューを使う

無線接続無効ユーティリティのアイコンを右クリックすると、メニューが表示されます。

✓ LANケーブル監視：オン (O)
LANケーブル監視：オフ (F)
バージョン情報 (V)
終了 (X)

表示されたメニューの項目をクリックして、無線接続無効ユーティリティの動作を切り替えることができます。

LAN ケーブル監視：オン
無線接続無効ユーティリティが働き、LAN ケーブルを接続すると無線接続が無効になります。

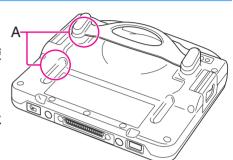
LAN ケーブル監視：オフ
無線接続無効ユーティリティは働かず、LAN ケーブルを接続する、しないにかかわらず無線接続は有効のままです。

終了
無線接続無効ユーティリティを終了し、無線接続を有効にします。

お願い

- 無線 LAN を通じてパソコンに無断アクセスされないようにするには
  無線 LAN をご使用になる前に、暗号化などのセキュリティ設定を行うことをお勧めします。設定をしないと、共有ファイルなどハードディスク上のデータに無断でアクセスされる危険性があります。

お知らせ

- 通信は無線 LAN アンテナ（A）を通じて行われます。手や体などでアンテナ部をふさがないでください。
- ユーザーの簡易切り替え機能を使ってユーザーを切り替えた後、無線 LAN が使えなくなる場合があります。
- 電子レンジの近くでは、正常に動作しない場合や通信速度が遅くなる場合があります。
- 無線 LAN を使うには、セットアップユーティリティの「詳細」-「無線設定」メニューで「無線 LAN」を「有効」（工場出荷時の設定）に設定してください。
  （➔ 102 ページ）

■ 無線 LAN 通信をオン／オフする

➔ 82 ページ「無線通信をオン／オフする」

■ 無線 LAN の通信状態を確認する

1 **画面右下のタスクトレイの「無線切り替えユーティリティアイコン」（ または ）の上にカーソルを置く。ツールチップが表示されます。**

本機のネットワークの設定

1 **無線 LAN をオンにする。（➔ 82 ページ）**

2 **画面右下のタスクトレイの「ワイヤレスネットワーク接続アイコン」（ または ）をクリックする。**

- をクリックして [ワイヤレスネットワーク接続の状態] 画面が表示された場合は、[ワイヤレスネットワークの表示] をクリックしてください。

3 **アクセスポイントに接続する。**

- 無線 LAN アクセスポイントに接続できるかどうか、次の操作で確認できます。詳しくは、無線 LAN アクセスポイントに付属の説明書をご覧ください。

① 無線LANアクセスポイントの電源を入れて設定する。

② 画面右下のタスクトレイの「ワイヤレスネットワーク接続アイコン」 をクリックして確認する。

無線 LAN の規格 IEEE802.11a（802.11a）の設定

無線 LAN の規格 IEEE802.11a の 5.2 GHz/5.3 GHz 帯（W52、W53）を使って屋外で通信を行うことは、電波法で禁止されています。無線 LAN の電源がオンの状態で本機を屋外で使用する場合は、あらかじめ IEEE802.11a を無効に設定しておいてください。
5.47GHz ～ 5.725GHz の周波数帯域（W56）の屋外での使用については電波法で禁止されていません。

1　コンピューターの管理者の権限で Windows にログオンする。

- 制限ユーザーでは、IEEE802.11a の有効／無効を切り替えることはできません。コンピューターの管理者の権限で IEEE802.11a の有効／無効を切り替えると、制限ユーザーも同じ設定になります。

2　画面右下のタスクトレイのまたはをクリックする。

3　[802.11a 有効] または [802.11a 無効] をクリックする。

お知らせ

- 無線切り替えユーティリティアイコン（ または ）は、IEEE802.11a の設定ではなく、無線 LAN / Bluetooth / ワイヤレス WAN のオン／オフ状態を示しています。
- [デバイス マネージャ] で設定を変更すると、それに伴い状態表示も変わります。
- パソコンが IEEE802.11b/g アクセスポイントに接続されているときに、IEEE802.11a を有効または無効にすると、一時的に通信が途切れることがあります。
- [デバイス マネージャ] でも IEEE802.11a の設定を変更することができます。
  ① [スタート] - [コントロールパネル] - [パフォーマンスとメンテナンス] - [システム] - [ハードウェア] - [デバイス マネージャ] をクリックする。
  ② [ネットワーク アダプタ] をダブルクリックし、[Intel(R) WiFi Link 5100 AGN] をダブルクリックする。
  ③ [詳細設定] をクリックし、[プロパティー] の [ワイヤレス モード] を選択する。
  ④ [値] で設定（[802.11a と 802.11g] など）を選択する。
  ⑤ [OK] をクリックする。

無線切り替えユーティリティのポップアップメニューで IEEE 802.11a を有効または無効にすると、[デバイスマネージャ] の設定により下記のように切り替わります。

デバイスマネージャの設定	切り替えユーティリティの設定	
	IEEE802.11a が有効のとき	IEEE802.11a が無効のとき
[802.11a、802.11b、802.11g] [802.11b と 802.11g]	a+b+g が有効	b+g が有効
[802.11g のみ] [802.11a と 802.11g]	a+g が有効	g が有効
[802.11a のみ] [802.11b のみ]	a が有効	b が有効

本機に暗号を設定する

1 画面右下のタスクトレイの「ワイヤレスネットワーク接続アイコン」(または)を右クリックして、[利用できるワイヤレス ネットワークの表示] をクリックする。

2 [ワイヤレス ネットワーク接続] の [関連したタスク] から [優先ネットワークの順位の変更] をクリックする。

3 [優先ネットワーク] から無線 LAN アクセスポイントのネットワーク名をクリックし、[プロパティ] をクリックする。

4 無線 LAN アクセスポイントに設定した内容に従って暗号を設定する。

5 [OK] をクリックする。

FREESPOTで使う

FREESPOT とは、無線 LAN でインターネットにアクセスできる環境を開放し、誰でもメールやインターネットを利用できるエリア・サービスのことです。
FREESPOT を利用するためには、無線 LAN の設定を FREESPOT 用に設定する必要があります。本機では、FREESPOT を簡単に利用できるようあらかじめ FREESPOT 用の設定が登録されています。
FREESPOT の設定場所や設定方法については、http://www.freespot.com/ をご覧ください。

お願い

- FREESPOTの設定場所に移動し、電波を受信できる環境で設定してください。
- 「ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ」画面の[ワイヤレスネットワーク]の[プロパティ]では、[キーは自動的に提供される]のチェックマークを外し、[データの暗号化]、[ネットワーク認証]は設定しないでください。
- 屋外でFREESPOTを利用する場合は、IEEE802.11aを無効に設定してください。（➔ 87ページ）IEEE802.11aの5.2 GHz／5.3 GHz帯（W52、W53）を使って屋外で通信を行うことは、電波法で禁止されています。無線LANの電源がオンの状態で本機を屋外で使用する場合は、あらかじめIEEE802.11aを無効に設定しておいてください。
5.47 GHz～5.725 GHzの周波数帯域（W56）の屋外での使用については電波法で禁止されていません。

1 FREESPOTの設定を選択する。

① 画面右下のタスクトレイの「ワイヤレスネットワーク接続アイコン」（ または ）を右クリックして、[ネットワーク接続を開く]をクリックする。
② [ワイヤレスネットワーク接続]を右クリックし、メニューから[プロパティ]をクリックして選び、[ワイヤレスネットワーク]をクリックする。
③ [Windowsでワイヤレスネットワークの設定を構成する]をクリックして、チェックマークを付ける。
④ [ワイヤレスネットワークの表示]をクリックし、[ワイヤレスネットワークの選択]の中から[FREESPOT]をクリックする。
⑤ [接続]をクリックする。

2 画面右下のタスクトレイの「ネットセレクターアイコン」 を右クリックしてネットセレクターのメニューを表示させ、[FREESPOT] をクリックする。

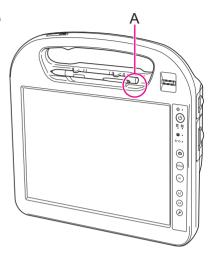
お知らせ

- [FREESPOT]をクリックすると、自動的にWindowsファイアウォールが有効になります。

Bluetooth 機能

ケーブルを接続しないで、インターネットや他の Bluetooth 機器にアクセスすることができます。

お知らせ

- 通信は Bluetooth アンテナ（A）を通じて行われます。手や体などでアンテナ部をふさがないでください。
- Bluetooth を使うには、セットアップユーティリティの「詳細」-「無線設定」メニューで「Bluetooth」を「有効」（工場出荷時の設定）に設定してください。（➔ 102 ページ）
- 電子レンジの近くでは、正常に動作しない場合や通信速度が遅くなる場合があります。

■ Bluetooth をオン／オフする

➔ 82 ページ「無線通信をオン／オフする」

■ Bluetooth の通信状態を確認する

1 **画面右下のタスクトレイの「無線切り替えユーティリティアイコン」（ または ）の上にカーソルを置く。**
ツールチップが表示されます。

■ オンラインマニュアルにアクセスする

1 **[スタート] - [すべてのプログラム] - [Bluetooth] - [ユーザーズガイド] をクリックする。**

自宅や会社、出張先など、いろいろな場所でネットワークに接続する場合、本機にインストールされているネットセレクターが便利です。

■ ネットセレクターはこんなときに使う

- ネットワークの接続方法を頻繁に切り替える
  例えば、自宅では無線 LAN、会社では LAN、出張先では別の無線 LAN を使っている場合でも、ネットワークの設定（ネットワークプリンターを含む）を簡単に切り替えられます。
- プロバイダーやアクセスポイントなどの接続先を頻繁に切り替える
  例えば、プロバイダーは 1 つだが、出張が多くてその都度アクセスポイントを選択する場合でも、簡単にアクセスポイントの選択ができます。

■ ネットセレクターでできること

ダイヤルアップ [*1]	● ダイヤルアップ登録したインターネット接続設定などがネットセレクターの画面から使えます。
ネットワーク	● 会社などで使われているネットワークの設定を 9 件まで登録することができます。 ● 現在使用中の設定内容をそのまま登録することができます。 ● 通常使うプリンターに設定されているプリンターも、そのまま登録することができます。 ● ネットセレクターの画面からネットワークの設定や登録もできます。
接続方法	● LAN[*2]、無線 LAN、LAN[*2] ＋無線 LAN の 3 種類から選ぶことができます。

[*1] 別売りの外付けモデムが必要です。
[*2] クレードルに接続時のみ

ネットワークへの接続方法や接続先を切り替える

あらかじめ、無線 LAN または LAN*3 など、ネットワークに接続できる設定にしておいてください。

*3 クレードルに接続時のみ

1 **ネットセレクターを表示する。**

画面右下のタスクトレイの「ネットセレクターアイコン」をクリックする。

- ネットワーク関係の情報を収集するのに時間がかかり、ネットセレクターの起動が遅くなることがあります。
- パソコンを起動した後、初めてネットセレクターを起動した場合は、「ネットワーク設定」の画面が表示されます。2回目以降は、前回使用していた画面（[接続方法] または [ネットワーク設定]）が表示されます。

2 **[接続方法]または[ネットワーク設定]をクリックする。**

3 **接続アイテムをクリックし、 をクリックする。**

4 **インターネットやメール、ネットワークなどを利用する。**

- ダイヤルアップ接続を切断するときは

① 画面右下のタスクトレイの をクリックする。

② [接続方法]画面のメニューボタンから をクリックする。

お知らせ

- 全機能を利用できるのは、Internet Explorer 5.5/6.0、Outlook Express 5.5/6.0に限ります。
- Internet ExplorerやOutlook Expressでダイヤルアップ接続の既定値を変更した場合は、その設定が有効になります。
- ネットセレクターのウィンドウサイズを変更することはできません。
- Outlook Expressの[ツール] - [アカウント] - [メール] - [プロパティ]をクリックし、[接続]の[このアカウントには次の接続を使用する]にチェックマークを付けている場合は、その接続が有効になります。
- LANの設定を行う場合は、パソコンをクレードルに取り付けて行ってください。

- コンピューターの管理者の権限以外でログオンした場合
  - [ネットワーク設定]画面は表示されません。
  - [接続方法]画面：
    - ドメインの設定を行っていない場合、ダイヤルアップ接続の既定の接続アイテムを切り替えることはできません。
    - [LAN] と [無線 LAN] を統一して [LAN] と表示されます。[LAN] と [無線 LAN] を切り替えることはできません。また、LAN の機器名は表示されません。

ネットワークへの接続設定を登録する

会社では LAN、出張先では別の LAN を使うなど、ネットワークの接続方法を頻繁に切り替える必要がある場合、各ネットワークの接続方法をネットセレクターに登録しておくことができます。
登録しておけば、接続アイテムを選ぶだけで設定が切り替わります。

お知らせ

- モデム（別売り）によるダイヤルアップの場合、Windowsで新しい接続を追加すれば、ネットセレクターで接続先を切り替えることができます。
- ネットワークへの接続設定の登録／変更／削除は、コンピューターの管理者の権限でログオンして行ってください。
- ネットセレクターに登録される設定内容は以下のとおりです。
  - IPアドレス
  - DNSアドレス
  - WINSアドレス
  - ゲートウェイ
  - ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定
  - LANおよび無線 LANの有効／無効
  - 通常使うプリンターの設定
  - Windowsファイアウォールの状態
  - 通常使う接続の設定
- パソコンをクレードルに取り付けずに [入力した設定を登録する] を行った場合、ネットワークの設定画面で [LANを有効にする] を選択することができません。
- ネットワーク設定には、ネットワークに関する高度な知識が必要です。Windowsのネットワークに関する用語や意味を十分理解したうえで本機能を使用してください。

フォントサイズ拡大

文字、アイコン、タイトルバー、カーソルなどの表示項目を拡大することができます。

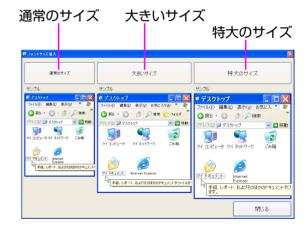
お願い

- ディスプレイ解像度が 1024 × 768 ドット以下の場合、フォントサイズ拡大はご使用いただけません。

お知らせ

- 拡大表示されると、一部の表示項目が隠れる場合があります。この場合は、カーソルをポップアップに合わせて表示させるか、画面をスクロールさせるか、または他の機能を使用して隠れている項目を表示させてください。
- フォントサイズ拡大は、Internet Explorer で表示されたウェブサイトの文字や Outlook Express の電子メール文字にも対応していますが、一部の文字は拡大されない場合があります。

準備：
フォントサイズ拡大を使用する前に、すべてのアプリケーションソフトを閉じてください。

1. **[スタート]-[すべてのプログラム]-[Panasonic]-[フォントサイズ拡大] をクリックする。**
2. **サイズを選択する。**
3. **[OK] をクリックする。**
   選択されたサイズで画面が表示されます。

ズームビューアー

画面の一部を拡大することができます。

ズームビューアーを起動する

1 [スタート] - [すべてのプログラム] - [Panasonic] - [ズームビューアー]をクリックする。

2 [OK]をクリックする。

- 画面右下のタスクトレイに が表示されます。

ズームビューアーを使う

1 画面上の拡大したい部分にカーソル を合わせる。

2 をダブルクリックするか、をクリックし[表示する]をクリックする。

- カーソルを合わせた部分が拡大されます。

3 拡大表示ウィンドウ（A）をドラッグして、拡大表示される部分を動かす。

- 拡大表示ウィンドウを非表示にするには、（非表示ボタン）（B）をクリックしてください。
  または、拡大表示ウィンドウの範囲外でクリックしてください。
- 拡大表示ウィンドウのサイズを変更するには、右下の隅（C）をドラッグしてください。
  拡大／縮小できるサイズの範囲は、画面の解像度により異なります。

お知らせ

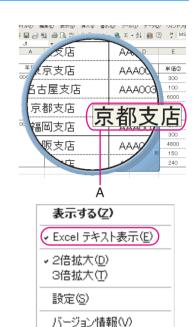
- 拡大表示ウィンドウの中のテキストや画像は、拡大表示された瞬間のものになります。元の画面で変更した内容を拡大表示ウィンドウに反映するには、拡大表示ウィンドウをクリックしてください。

- アプリケーションソフトによっては、ズームビューアーが働かない場合があります。

■ Excelのセルの文字を拡大表示するには

拡大表示ウィンドウの中央にあるセルの文字を、テキスト表示ウィンドウ（A）に大きく表示することができます。

① 画面右下のタスクトレイの を右クリックする。

② [Excelテキスト表示]にチェックマークを付ける。
- 工場出荷時はチェックマークが付いています。
- チェックマークを外すと、テキスト表示ウィンドウは表示されません。

お知らせ

- 次の場合、テキスト表示ウィンドウは表示されません。
  - お使いのExcelが、Microsoft® Excel 2000／Microsoft® Excel 2002／Microsoft® Office Excel 2003よりも前のバージョンの場合
（上記よりも前のバージョンには対応していません。）
  - セル以外（テキストボックス、コメント、グラフなど）の文字の場合
  - 印刷プレビュー画面の場合
  - テンプレートを使用してファイルを新規作成し、そのファイルを保存していない状態（保存するとテキスト表示ウィンドウが表示されます。）
- 複数のウィンドウで、同じ名前のファイルを開いているときは、テキスト表示ウィンドウが表示されない場合があります。また、ファイルによってもテキスト表示ウィンドウが表示されない場合があります。
- テキスト表示ウィンドウで表示される文字は、1番手前に表示されているExcelファイル（選択されているExcelファイル）の拡大表示ウィンドウの中央にあるセルの文字です。
- セルからはみ出した文字上にカーソルがあった場合は、テキスト表示ウィンドウは表示されません。はみ出した文字が格納されているセル上にカーソル（拡大表示ウィンドウの中央部分）を移動させてください。

ズームビューアーを設定する

1　**画面右下のタスクトレイの［アイコン］を右クリックする。**

2　**[設定]をクリックする。**

表示する(Z)
Excel テキスト表示(E)
2倍拡大(D)
3倍拡大(T)
設定(S)
バージョン情報(V)
終了(X)

[表示／非表示のショートカットキーの割り当て]

● 外部マウスを使用するとき

① [マウス／タッチパッド]をクリックする。

② **Alt**、 **Ctrl**、 **Shift**の中から組み合わせるキーをクリックし、チェックマークを付ける。（複数キーの組み合わせが可能です。例：**Ctrl**+**Alt**）

③ [右クリック]または[左クリック]のいずれかのうち、上記の手順②で選択したキーと組み合わせて使うものを選択してください。

● 外部キーボードを使用するとき

① [キーボード]をクリックする。

② エディットボックスをクリックし、ショートカット用に使うキーを押す。（例：**Alt** + **Z**、 **Ctrl** + **Alt** + **Z**など）

[ウインドウデザイン]

拡大表示ウィンドウの形を選択します。

[自動起動]

[スタートアップに登録する]にチェックマークを付けると、Windows起動時にズームビューアーが自動的に起動します。

3　**[OK]をクリックする。**

パソコンの動作環境の設定（パスワード設定、起動ドライブの選択など）をすることができます。

準備

- パソコンをクレードルに取り付けて、外部キーボードと AC アダプターをクレードルに接続してください。

セットアップユーティリティを起動する

1 **パソコンの電源を入れる、または再起動する。**

2 **[Panasonic] 起動画面が表示されている間に、F2 または Del を押す。**

パスワード入力画面が表示されたら、パスワードを入力してください。

スーパーバイザーパスワードで、セットアップユーティリティを起動したとき

- セットアップユーティリティのすべての項目が設定できます。

ユーザーパスワードで、セットアップユーティリティを起動したとき

- 次のようになります。
  - 「詳細」および「起動」メニューでは、項目の設定を変更することはできません。
  - 「セキュリティ」メニューでは、「ユーザーパスワード保護」が「保護しない」に設定されている場合に、ユーザーパスワードのみ変更できます。ユーザーパスワードを削除することはできません。
  - 「終了」メニューでは、「デフォルト設定」および「デバイスを指定して起動」の設定はできません。
  - F9（工場出荷時の設定）は使えません。

情報メニュー

下線は工場出荷時の設定です。

言語（Language）	English Japanese
製品情報 機種品番 製造番号 **システム情報** プロセッサータイプ プロセッサースピード メモリーサイズ 使用可能メモリー ハードディスク **BIOS 情報** BIOS 電源コントローラー 累積使用時間 アクセスレベル	パソコン情報 （変更できません）

メインメニュー

下線は工場出荷時の設定です。

システム日付 • 年／月／日（曜日） • Tab でカーソルの移動ができます。	[xxxx/xx/xx(x)]
システム時間 • 24 時間制です。 • Tab でカーソルの移動ができます。	[xx:xx:xx]
メイン設定	
SAS ボタン	F1 F2 F3 F4 F5 F6 F7 F8 F9 F10 F11 F12
ハンドル側ボタン	無効 有効
ディスプレイ • Windows が起動するまでの表示先を設定します。外部ディスプレイを接続していないときは、「外部ディスプレイ」を選んでいても、すべての情報が内部 LCD に表示されます。	外部ディスプレイ 内部 LCD
充電中バッテリー状態表示 • [明滅] に設定した場合、バッテリー充電中は長い間隔で点滅します。	点灯 明滅
環境	常温 高温 自動

バッテリー 1 の現在の状態 • 「環境」が「自動」に設定されているときのみ表示されます。	バッテリーの状態によって、「常温」または「高温」のどちらかが表示されます。
バッテリー 2 の現在の状態 • 「環境」が「自動」に設定されているときのみ表示されます。	バッテリーの状態によって、「常温」または「高温」のどちらかが表示されます。

詳細メニュー

下線は工場出荷時の設定です。

CPU 設定	
データ実行防止機能	無効 有効
Hyper Threading Technology	無効 有効
Intel (R) Virtualization Technology	無効 有効
周辺機器設定	
クレードル USB ポート	無効 有効
レガシー USB	無効 有効
カメラ	無効 有効
▶ 無線設定	サブメニュー 表示 *1
▶ シリアルポート設定 ・GPS とバーコードリーダーの設定をします。	サブメニュー 表示 *2

*1 以下のサブメニューは「無線設定」を選択すると表示されます。

無線 LAN	無効 有効
ワイヤレス WAN ・ワイヤレス WAN 内蔵モデルのみ	無効 有効
Bluetooth	無効 有効

*2 以下のサブメニューは「シリアルポート設定」を選択すると表示されます。

GPS ・GPS 内蔵モデルのみ	無効 有効
バーコードリーダー	無効 有効

トリガーモード • [バーコードリーダー] が [有効] に設定されているときのみ表示されます。	<u>ソフトウェア</u> ハードウェア

起動メニュー

起動オプション優先度	
起動オプション # 1	USB フロッピー [*3]
起動オプション # 2	ハードディスク
起動オプション # 3	USB CD/DVD ドライブ
起動オプション # 4	LAN[*4]
起動オプション # 5	USB ハードディスク

■ 起動順位を変更するには

工場出荷時の設定は、次のようになっています。
「USB フロッピー [*3]」->「ハードディスク」->「USB CD/DVD ドライブ」->「LAN」->「USB ハードディスク」

- 変更したい起動機器の上で ↵ を押し、下記のメニューから起動機器を選択してください。
  - 選択した起動機器がすでに他の起動オプション (#1 ～ #4) にある場合は、新しい設定が優先され、重複した起動オプションと表示が入れ替わります。
  - 下記のメニューで「無効」を選択した場合は、その起動オプションを飛ばして次の起動オプションが有効になります。

USB フロッピー [*3]
ハードディスク
LAN[*4]
USB ハードディスク
USB CD/DVD ドライブ
無効

[*3] USB フロッピーからの起動は、当社製外部 FDD（品番：CF-VFDU03U）で動作を確認しています。

[*4] CF-VEBH11AU に接続しているときのみ

お知らせ

- 以下のデバイスから起動するには、下記のように設定してください。
  - USB 機器から起動するには、「詳細」メニューで「レガシー USB」を「有効」に設定をしてください。
    (➔ 102 ページ)

セキュリティメニュー

下線は工場出荷時の設定です。

起動時の表示設定	
Setup Utility 表示 ・「Setup Utility 表示」が「無効」になっていると、「Press F2 for Setup」[*5] というメッセージが「Panasonic」起動画面に表示されません。ただし、メッセージが表示されなくても **F2**、 **F12**[*6] と **Del** は働きます。	無効 有効
起動時のパスワード	無効 有効 [*7]
スーパーバイザーパスワード設定	サブメニュー表示
ハードディスク保護 ・「スーパーバイザーパスワード設定」を行っている場合のみ設定できます。	保護しない 保護する
ユーザーパスワード保護	保護しない 保護する
ユーザーパスワード設定 ・「スーパーバイザーパスワード設定」を行っている場合のみ設定できます。	サブメニュー表示
▶ 内蔵セキュリティ（TPM）設定 ・詳しくは『内蔵セキュリティチップ（TPM）ご利用の手引き』をご覧ください。 [スタート] をクリックし、[ファイル名を指定して実行] に「c:¥util¥drivers¥tpm¥readme.pdf」と入力して、↵ を押す。	サブメニュー表示
▶ 指紋認証セキュリティ	サブメニュー表示

[*5] CF-VEBH11AU に接続しているときのみ：[Press F2 for Setup/F12 for LAN]

[*6] CF-VEBH11AU に接続しているときのみ

[*7] パソコン起動時に、パソコンをクレードルに取り付けて、外部キーボードをクレードルに接続しておく必要があります。

終了メニュー

設定を保存して再起動	設定内容を保存して再起動する
設定を保存しないで再起動	設定内容を保存せずに再起動する
保存オプション	
設定を保存する	設定内容を保存する
設定を戻す	設定内容を変更前の設定に戻す
デフォルト設定	工場出荷時の設定に戻す
デバイスを指定して起動	
(デバイス情報)	次回に起動するデバイスを選択する

ハードウェアの自己診断機能

本機のハードウェアが正常に動作していない可能性がある場合は、PC-Diagnostic ユーティリティを使って診断することができます。
ハードウェアに問題が発見されたときは、当社のご相談窓口にご相談ください。
このユーティリティでは、ソフトウェアは診断できません。

準備

- パソコンをクレードルに取り付けて、外部キーボードとマウス、AC アダプターをクレードルに接続してください。

PC-Diagnostic ユーティリティで診断できるハードウェア

下記のハードウェアを診断することができます（ソフトウェアを診断することはできません）。

- CPU/System　（CPU のチェック）
- RAM XXX MB（メモリーのチェック）
- HDD XXX GB（ハードディスクのチェック）
- Video（ビデオコントローラーのチェック）
- サウンドコントローラー *1
- 無線 LAN 機能
- ワイヤレス WAN 機能 *2
- Bluetooth 機能
- GPS 機能 *3
- タッチパネル

*1 診断中に、大きなビープ音が鳴ります。（Windows メニューで音声をオフにしている場合は、ビープ音は鳴りません。）

*2 ワイヤレス WAN 内蔵モデルのみ

*3 GPS 内蔵モデルのみ

- ビデオコントローラー診断の実行中に、画面が乱れることがあります。また、サウンドコントローラー診断の実行中に、スピーカーから音が出ることがあります。いずれも故障ではありません。

PC-Diagnostic ユーティリティについて

お知らせ

- ハードディスクドライブとメモリーについては、標準診断と拡張診断のいずれかを選択できます。
  PC-Diagnostic ユーティリティが起動すると、標準診断がスタートします。
- デュアルタッチを使って PC-Diagnostic ユーティリティを操作することはできません。

操作内容	外部マウス操作	外部キーボード操作
アイコンを選ぶ。	アイコンの上にカーソルを置く。	**Space** を押し、→ ← ↑ ↓ を押す（☒（閉じる）は選択できません）。
アイコンをクリックする。	クリックする（右クリックは使えません）。	アイコンの上で **Space** を押す。
PC-Diagnostic ユーティリティを終了し、パソコンを再起動する。	☒（閉じる）をクリックする。	**Ctrl** + **Alt** + **Del** を押す。

診断を実行する

セットアップユーティリティの設定を工場出荷時の状態に戻して診断を実行してください。
セットアップユーティリティまたはその他の設定でハードウェアが無効になっていると、そのハードウェアのアイコンがグレー表示されます。

1 **AC アダプターを接続する。**
診断が完了するまで、AC アダプターを取り外したり、周辺機器を取り付けたりしないでください。

2 **パソコンの電源を入れるか再起動し、[Panasonic] 起動画面が表示されている間に、F2 または Del を押す。**
セットアップユーティリティが起動します。
- パスワード入力画面が表示されたら、スーパーバイザーパスワードを入力してください。
- セットアップユーティリティを工場出荷時の設定から変更している場合は、設定をメモしておくことをお勧めします。

3 **F9 を押す。**
確認メッセージで「はい」を選び、↵ を押してください。

4 **F10 を押す。**

確認メッセージで「はい」を選び、Enter を押してください。
パソコンが再起動します。

5 **[Panasonic] 起動画面が表示されている間に、Ctrl + F7 を押す。**

PC-Diagnostic ユーティリティが起動すると、すべてのハードウェアの診断が順番に始まります。

- パスワード入力画面が表示されたら、パスワードを入力してください。
- 画面に触れないでください。
- ハードウェアアイコンの左側（A）が青色と黄色に交互に点滅し始めるまで、外部キーボードは使えません。

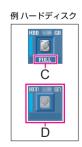
- 画面上のアイコンをクリックして、次の操作をすることができます。
  - ▶ ：診断を最初から実行する。
  - ■ ：診断を中止する。（▶ をクリックしても、途中から再開することはできません。）
  - i ：ヘルプを表示する。（画面をクリックするか、Space を押すと元の画面に戻ります。）
- 診断状況は、ハードウェアアイコンの左側（A）の色で確認できます。
  - 水色：診断を実行していません。
  - 青色と黄色が交互に点滅：診断を実行中です。点滅の間隔は、標準診断か拡張診断かにより異なります。メモリー診断の場合は、画面が長い間停止状態になる場合があります。診断が終了するまでお待ちください。
  - 緑色：問題は見つかりませんでした。
  - 赤色：問題が見つかりました。

お知らせ

- 以下の手順で、特定のハードウェアの診断を実行したり、ハードディスクやメモリーの拡張診断を実行したりすることができます。（拡張診断はハードディスクとメモリーのみ）拡張診断は詳細な診断を行うため、終了するまで時間がかかります。

① ■ をクリックして診断を中止する。

② 診断しないハードウェアのアイコンをクリックし、グレー表示（B）させる。
ハードディスクまたはメモリーの診断を実行しているときは、アイコンを一度クリックすると拡張診断（「FULL」（C）がアイコンの下に表示されます）になりますので、再度クリックしてアイコンをグレー表示（D）させてください。

③ ▶ をクリックして診断を開始する。

6 **すべてのハードウェアの診断が終わったら、診断結果を確認する。**

表示の色が赤色になり、「Check Result TEST FAILED」が表示されたら、ハードウェアに問題があると考えられます。赤色のハードウェアを確認し、ご相談窓口にご相談ください。
表示の色が緑色になり、「Check Result TEST PASSED」が表示されたら、ハードウェアは正常に動作しています。そのままパソコンをお使いください。それでもパソコンが正しく動作しない場合は、ソフトウェアを再インストールしてください。（『取扱説明書』の「再インストールする」を参照してください）

7 **☒（閉じる）をクリックするか、Ctrl + Alt + Del を押してパソコンを再起動する。**

パソコンを廃棄または譲渡する場合には、データが流出しないよう、ハードディスクのデータをすべて消去してください。通常の Windows メニューでデータの消去やハードディスクの初期化を行った場合でも、特殊なソフトウェアを使うと、消去されたデータが読み出される可能性があります。ハードディスクデータ消去ユーティリティを使って、データをすべて消去してください。
市販のソフトウェアをアンインストールせずに譲渡すると、ソフトウェア使用許諾契約に違反するおそれがありますのでご注意ください。

ハードディスクデータ消去ユーティリティでは、データを上書きする方法を用いていますが、誤動作や誤操作が起こると、データが完全に消去されない場合があります。また、特殊な機器により読み出される可能性があります。非常に機密性の高いデータを消去する必要がある場合には、専門業者に依頼することをお勧めします。また、このユーティリティの使用により生じた損失や損害については補償いたしかねます。

お願い

- 内蔵ハードディスクにのみ有効です。外付けのハードディスクには働きません。
- 実行すると、ハードディスクからは起動しなくなります。
- 損傷したハードディスクのデータは消去できません。

お知らせ

- パーティションを指定してデータを消去することはできません。
- デュアルタッチ操作は使用できません。

< フラッシュメモリーモデルの場合 >
- ハードディスクドライブの代わりにフラッシュメモリードライブが内蔵されています。
  ハードディスクの消去中に表示される「ハードディスク」「ハードディスクドライブ」は、「フラッシュメモリー」「フラッシュメモリードライブ」と読み替えてください。

準備
- 以下を準備してください。
  - Windows 7 用プロダクトリカバリー DVD-ROM（付属）
  - USB CD/DVD ドライブ（別売り）（推奨ドライブについては、最新のカタログなどをご確認ください。）
  - パソコンをクレードルに取り付けて、外部キーボードとマウスをクレードルに接続してください。
- すべての外部機器（CD/DVD ドライブ、外部キーボードとマウス以外）を取り外してください。
- AC アダプターを接続して、操作が完了するまで取り外さないでください。
- 以下の操作には外部キーボードとマウスを使ってください。

1 **パソコンの電源を切り、CD/DVD ドライブをクレードルの USB ポートに接続する。**

2 **パソコンの電源を入れて、[Panasonic] 起動画面が表示されている間に、F2 または Del を押す。**

セットアップユーティリティが起動します。

- パスワード入力画面が表示されたら、スーパーバイザーパスワードを入力してください。

3 **F9 を押す。**

- 確認のメッセージが表示されたら「はい」を選び、↵ を押してください。

4 **プロダクトリカバリー DVD-ROM を CD/DVD ドライブにセットする。**

5 **「終了」メニューの「デバイスを指定して起動」で、接続した CD/DVD ドライブを選ぶ。**

6 **↵ を押す。**

パソコンが再起動します。

- 以下の操作中にパスワード入力画面が表示されたら、スーパーバイザーパスワードまたはユーザーパスワードを入力してください。

7 **[セキュリティのためハードディスクの内容を消去する] を選び、[次へ] をクリックする。**

8 **確認のメッセージで「はい」をクリックする。**

9 **[実行する] をクリックする。**

10 **再度 [実行する] をクリックする。**

11 **[はい] をクリックする。**

ハードディスクのデータ消去が始まります。

12 **終了のメッセージが表示されたら、プロダクトリカバリー DVD-ROM を取り出し、[OK] をクリックする。**

エラーコード／メッセージ

エラーコードやメッセージが表示された場合は、下記の対処の説明に従ってください。それでも解決できない場合、または下記以外のエラーコードやメッセージが表示された場合は、ご相談窓口にご相談ください。

エラーコード／メッセージ	対処
システム CMOS 値が正しくありません。	セットアップユーティリティの設定内容を保持しているメモリーの内容が正しくありません。これは、プログラムなどの意図しない動作により、メモリーの内容が変更された場合に起こるエラーです。 ● セットアップユーティリティを起動し、デフォルト設定にした後、必要に応じて適切な値に設定し直してください。 ● それでも表示される場合は、データ保持用の内蔵クロックバッテリーの交換が必要になる可能性があります。ご相談窓口にご相談ください。
システム CMOS のチェックサムが正しくありません。	
日付と時刻の設定が正しくありません。01/01/2010 に設定しました。	日付と時刻の設定が正しくありません。 ● セットアップユーティリティを起動し、日付と時刻を正しく設定してください。 ● それでも表示される場合は、データ保持用の内蔵クロックバッテリーの交換が必要になる可能性があります。ご相談窓口にご相談ください。
<F2> **キーを押すとセットアップを起動します。**	● エラー内容をメモした後、パソコンをクレードルに取り付けて、外部キーボードと AC アダプターをクレードルに接続し、 **F2** または **Del** を押してセットアップユーティリティを起動してください。必要に応じて設定を変更してください。（➔ 98 ページ）

ネットワーク接続と通信ソフトウェアについて

省電力機能は、通信ソフトウェアを終了してからお使いください。

- 通信ソフトウェアを使用中に省電力機能（スリープや休止状態）が働くと、ネットワーク接続が切れたり、パフォーマンスが低下することがあります。その場合はパソコンを再起動してください。
- ネットワーク環境でお使いのときは、[システム スタンバイ]と[システム休止状態]を[なし]に設定することをお勧めします。
  [スタート] - [コントロールパネル] - [パフォーマンスとメンテナンス] - [電源オプション] - [電源設定] をクリックしてください。

Windows 関連ファイルについて

Windows 7 DVD-ROM に収録された Windows 関連ファイルは、下記のフォルダーにインストールされています。

c:¥windows¥docs、c:¥windows¥dotnetfx、c:¥windows¥i386、c:¥windows¥support、c:¥windows¥valueadd

トラブルが発生した場合は、以下の方法をお試しください。以下の方法でも解決しない場合は、当社ご相談窓口にご相談ください。ソフトウェアに関する問題は、ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

• パソコンの使用状態を確認するには（➔ 129 ページ）

■ 終了時

Windows の終了または再起動ができない。	● USB 機器を取り外してください。 ● 終了するまで 1 ～ 2 分かかる場合があります。

■ スタンバイ・休止状態

スタンバイまたは休止状態に入ることができない。	● USB 機器をいったん取り外してください。それでも正しく動作しない場合は、パソコンを再起動してください。 ● スタンバイ・休止状態に入るまで 1 ～ 2 分かかる場合があります。 ● リジューム直後はスタンバイ・休止状態には入りません。約 1 分間お待ちください。
スタンバイまたは休止状態に自動的に入らない。	● 外部機器を取り外してください。 ● 無線 LAN 機能を使ってネットワークに接続しているときは、アクセスポイントの設定を実行してください。（➔ 86 ページ）無線 LAN 機能を使っているときに、スタンバイまたは休止状態に入るには、「スタンバイ・休止状態に入る」（➔ 23 ページ）をご参照ください。 ● 無線 LAN 機能を使わない場合は、無線 LAN 機能の電源を切ってください。（➔ 82 ページ） ● ハードディスクに定期的にアクセスするソフトウェアまたは CPU に負荷がかかるソフトウェアを使っていないか確認してください。

■ サウンド

音が聞こえない。	● 画面右下の通知領域のまたはをクリックし、音量を変えてください。 ● パソコンを再起動してください。
音が乱れる。	● 再生をいったん停止し、再生し直してください。
サウンドレコーダーを開始したとき、「There was an error updating the registry」が表示された。	● 最後にサウンドレコーダーを使用したパソコンの管理者と異なる言語設定をしている制限ユーザーによってサウンドレコーダーが開始されたときに発生します。操作には影響ありません。

■ 文字入力

日本語が入力できない。	● MS-IME の言語バーで、入力モードを [ひらがな] にしてください。
特殊文字（ß、à、ç など）や記号が入力できない。	● 文字コード表を使ってください。[スタート] - [すべてのプログラム] - [アクセサリ] - [システム ツール] - [文字コード表] をクリックしてください。
Tablet PC 入力パネルのスクリーンキーボードで **Shift** キーなどを使った操作（例：**Shift** + **C**）ができない。	● スクリーンキーボードでは、 **Shift** を押しながら **C** を押すのではなく、 **Shift** を押した後、 **C** を押してください。 **Ctrl**、 **Alt** も同様です。

■ ネットワーク

ネットワークに接続できない。	● LAN を設定してください。（➔ 81 ページ）
パソコンの MAC アドレスが確認できない。	● 次の手順を行ってください。 ① [スタート] - [すべてのプログラム] - [アクセサリ] - [コマンド プロンプト] をクリックする。 ②「ipconfig/all」と入力し ↵ を押す。 ③ 有線 LAN または無線 LAN の、[Physical Address] と表示された行の 12 けたの英数字をメモする。 ④「exit」と入力し ↵ を押す。

■ ネットワーク

LAN の通信速度が極端に遅くなる。 無線 LAN が切断される。	● これらの問題は、CPU の省電力機能によって、パフォーマンスが低下するために起きる場合があります。コンピューターの管理者の権限で Windows にログオン後、次の操作を行ってください。 ① [スタート] - [ファイル名を指定して実行] をクリックし、「c:¥util¥cpupower¥setup.exe」と入力して [OK] をクリックする。 画面の指示に従ってください。 ② [スタート] - [すべてのプログラム] - [Panasonic] - [CPU省電力設定]をクリックする。 ③ [パフォーマンス優先]をクリックし[OK]をクリックして、[はい]をクリックする。 パソコンが再起動します。 ● それでも問題が解決しない場合は、[スタート] - [コントロールパネル] - [パフォーマンスとメンテナンス] - [電源オプション] - [電源設定] をクリックし、[電源設定] の [常にオン] をクリックし、[OK] をクリックしてください。 ● この操作は、CPU の省電力機能が原因で発生する現象には効果がありますが、その他の原因による現象には効果がありません（例：ビデオ再生など、CPU に高い負荷がかかりノイズが発生する場合など）。 ● この操作を行うと、バッテリーでの駆動時間が多少短くなります。通常は、[CPU 省電力設定] を [バッテリー優先（Windows XP 標準）] に、また [電源オプション] の [電源設定] を [ポータブル / ラップトップ] に戻しておくことをお勧めします。

■ 無線通信

ネットワークに接続できない。	● セットアップユーティリティの「詳細」-「無線設定」メニューで、「無線 LAN」、「Bluetooth」または「ワイヤレス WAN」を「有効」に設定してください。（➔ 102 ページ） ● パソコンを再起動してください。

■ 無線通信

アクセスポイントが検出されない。 アクセスポイントと通信できない。	● 無線 LAN の電源を入れた直後、または IEEE802.11a を有効にした直後は、アクセスポイントが検出されません。以下の手順で検出してください。 ① 画面右下のタスクトレイの または を右クリックする。 ② [利用できるワイヤレス ネットワークの表示]をクリックして、[ネットワークの一覧を最新の情報に更新]をクリックする。 • ワイヤレスネットワーク接続 ① 画面右下のタスクトレイの または を右クリックして、[ネットワーク接続を開く]をクリックする。 ② [ネットワーク接続]画面の[ワイヤレス ネットワーク接続]を右クリックして、[無効にする]が表示されていることを確認する。 [有効にする]が表示されている場合は、無線LANが無効です。[有効にする]をクリックしてください。 • ワイヤレスオン ① 画面右下のタスクトレイの または を右クリックして、[ネットワーク接続を開く]をクリックする。 ② [ワイヤレス ネットワーク接続]を右クリックして、[プロパティ] - [全般] - [構成] - [詳細設定]をクリックする。 ③ [ワイヤレス オン]と表示されていることを確認する。 [ワイヤレス オフ]と表示されている場合は、[ワイヤレス オフ]をクリックし、[ワイヤレス オン]をクリックしてください。

■ 無線通信

アクセスポイントが検出されない。 アクセスポイントと通信できない。 （つづき）	● パソコンどうしが、直接通信を行う方式（ad hoc モード）になっていないか確認してください。 ① 画面右下のタスクトレイの または を右クリックして、[ネットワーク接続を開く]をクリックする。 ② [ワイヤレス ネットワーク接続]を右クリックして、[プロパティ] - [ワイヤレス ネットワーク]をクリックする。 ③ [詳細設定]をクリックする。 ④ [コンピュータ相互（ad hoc）のネットワークのみ]が選択されている場合は、[利用可能なネットワーク（アクセスポイント優先）]をクリックする。 ● [ワイヤレス ネットワークの選択] 画面で、接続するアクセスポイントの右側に「オンデマンド」または「手動」と表示されている場合は、アクセスポイントをクリックして、[接続] をクリックしてください。 自動接続するには、下記の手順に従ってください。 •「オンデマンド」と表示されている場合： アクセスポイントが通信範囲内にあっても、自動で接続しないように設定されています。自動接続するには以下の設定を行ってください。 ①「関連したタスク」にある「優先ネットワークの順位の変更」をクリックする。 ②「優先ネットワーク」から接続するアクセスポイントをクリックし、[プロパティ]をクリックする。 ③ [接続]をクリックする。 ④「自動接続」の[このネットワークが範囲内にあるとき接続する]にチェックマークを付け、[OK]をクリックする。 次回からは自動接続されます。 • [手動] と表示されている場合： 前回、接続中のアクセスポイントを切断したため、手動接続になっています。一度接続し直すと、次回からは自動で接続されます。

■ 無線通信

アクセスポイントが検出されない。 アクセスポイントと通信できない。 （つづき）	● 画面右下のタスクトレイにまたはが表示されている場合は、下記の手順を行ってください。 ・が表示されているときは、IP アドレスなどが正しく取得できなかった可能性があります。をクリックし、[サポート] をクリックして [修復] をクリックしてください。 上記を行ってもが表示される場合は、ネットワークの各設定を確認してください。 ・が表示されている場合は、接続中です。そのまましばらくお待ちください。 の表示が長く続く場合、下記の手順を行ってください。 ① をクリックし、[ワイヤレスネットワークの表示]をクリックする。 ② 接続するアクセスポイントをクリックし、[切断]をクリックする、 ③ 再度、接続するアクセスポイントをクリックし、[接続]をクリックする。 ● ネットワーク接続の画面にネットワークブリッジが作成されていませんか？ネットワークブリッジを使用しない場合は削除してください。
アクセスポイントとの通信が切れる。	● IEEE 802.1X 規格の認証システムを採用していないネットワーク環境の場合は、下記の手順に従って、[このネットワークで IEEE 802.1X を有効にする] にチェックマークが付いていないことを確認してください。 ① 画面右下のタスクトレイのまたはを右クリックして、[ネットワーク接続を開く]をクリックする。 ② [ワイヤレス ネットワーク接続]を右クリックし、[プロパティ] - [ワイヤレス ネットワーク]をクリックする。 ③ [優先ネットワーク]から接続するネットワーク名をクリックし、[プロパティ]をクリックする。 ④ [認証]をクリックし、[このネットワークでIEEE 802.1X認証を有効にする]にチェックマークが付いていないことを確認する。
無線 LAN の接続が切れる。	● （➔ 117 ページ「ネットワーク」の「LAN の通信速度が極端に遅くなる。」）

■ 周辺機器を接続する

ドライバーのインストール中にエラーが発生する。	● カードや周辺機器のドライバーをインストールする場合は、OS に対応していることをご確認ください。未対応のドライバーを使用すると、誤動作につながる場合があります。ドライバーについては、周辺機器の製造元にお問い合わせください。
周辺機器が動作しない。	● クレードルを使う場合、AC アダプターをクレードルの電源端子に接続してください。 ● ドライバーをインストールしてください。 ● 機器の製造元にお問い合わせください。 ● スタンバイ・休止状態からリジュームした後、マウスなどが正しく動作しないことがあります。その場合はパソコンを再起動するか、機器を再度初期化してください。 ● デバイスマネージャで ⚠ が表示される場合は、機器を抜き挿ししてください。それでも正しく動作しない場合は、パソコンを再起動してください。 ● 機器の中には、パソコンが取り付け／取り外しを認識しなかったり、正常に動作しなかったりするものがあります。 次の操作を行ってください。 ① [スタート] - [コントロールパネル] - [パフォーマンスとメンテナンス] - [システム] - [ハードウェア] - [デバイスマネージャ] をクリックする。 ② 該当の機器を選択し、[電源の管理] の [電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする] のチェックマークを外す。（この項目がない場合もあります。）
USB フロッピーディスクドライブが、起動ドライブとして動作しない。	● ご使用のフロッピーディスクドライブによっては、正常に起動しない場合があります。フロッピーディスクからの起動は、当社製外部 FDD（品番：CF-VFDU03U）で動作を確認しています。 ● セットアップユーティリティの「詳細」メニューで、「レガシー USB」を「有効」に設定してください。（➔ 102 ページ） ● セットアップユーティリティの「起動」メニューで、「起動オプション #1」を「USB フロッピー」にしてください。（➔ 104 ページ） ● パソコンの電源を切り、USB フロッピーディスクドライブを接続後、パソコンを再起動してください。
割り込み要求（IRQ）、I/O ポートアドレスなどのアドレスマップがわからない。	● 現在のアドレスマップを確認するには、[スタート] - [コントロールパネル] - [パフォーマンスとメンテナンス] - [システム] - [ハードウェア] - [デバイスマ ネージャ] - [表示] - [リソース（種類別）] をクリックしてください。

■ デュアルタッチ

付属のデジタイザーペンで正しい位置を指定できない。	● 補正（キャリブレーション）を実行してください（➔ 5 ページ）。

■ 指紋センサー

指紋の登録・認証ができない。	● 指を正しくスライドさせてください。登録と認証について詳しくは、「指紋センサーを使うには」（➔ 66 ページ）または「指紋チュートリアル」をご覧ください。 • [スタート] - [すべてのプログラム] - [Protector Suite QL] - [指紋チュートリアル] をクリックする。 ● 指の状態が以下のような場合は、指を正しくスライドさせても登録・認証ができなかったり、正しく認証されなかったりすることがあります。 • 皮膚が荒れていたり、切り傷や皮膚炎がある • 極度に乾燥している • 泥や油で汚れている • 指紋が摩耗して溝が浅くなっている • 水にぬれている、または湿っている < 以上のような状態の場合は、次の処置で改善することができます > • 手を洗ったりふいたりする • 登録・認証に別の指を使う • 皮膚が荒れたり乾燥している場合は、ハンドクリームで手入れをする ● 指紋センサーをきれいにしてください。詳しくは「指紋センサーの取り扱いについて」（➔ 73 ページ）をご覧ください。 ● 上記の方法を行っても改善されない場合は、指紋センサーに不具合がある場合があります。ご相談窓口にご相談ください。

■ 指紋センサー

指紋センサーが動作しない。	● センサーを交換するときは、エクスポートしたパスポートが役に立ちます。 • 管理者のユーザーアカウントでログオンする。 Windows のログオンパスワードを使って常にパソコンにアクセスできます。 便利モードでは、どのユーザーもそれぞれのログオンパスワードでパソコンにアクセスできます。 • [File Safe] にアクセスするには [File Safe] は、[File Safe] バックアップパスワードを使ってアクセスできます。 • その他の機能 センサーの交換／取り外しは「指紋センサーの交換」の説明に従ってください。（➔ 125 ページ） いくつかの機能（パスポートの削除など）はセンサーなしで行えます。削除操作の場合は、パスワードダイアログを出すために、指紋認証操作をキャンセルする必要があります。

■ 指紋センサー

指紋を登録できない。（けがなど）	● このような問題を避けるために、少なくとも2つの指紋を登録しておくことをお勧めします。複数の指紋を登録してある場合は、使用できる指を使ってください。指紋登録が1つしかない場合は、[指紋の登録、または編集] を使って追加の指紋を登録することをお勧めします。 登録した指がどれも使えない場合は、以下の操作を行ってください。 ① コンピューターの管理者の権限で Windows にログオンする。 Windows のログオンパスワードを使って常にパソコンにアクセスできます。便利モードでは、どのユーザーもそれぞれのログオンパスワードでパソコンにアクセスできます。 ② 登録した指紋をアップデートする。 Protector Suite QLの機能をすべて使うには、使用できる指紋登録を持っていることが必要です。[指紋の登録、または編集] 画面に入ってください。 • [拡張セキュリティ] を使っていない場合は、Windowsのパスワードを使って入ることができます。 • [拡張セキュリティ] をバックアップパスワードで使っている場合は、バックアップパスワードで入ることができます。 • [拡張セキュリティ] をバックアップ・パスワードなしで使っている場合は、異なる指紋を追加する他の方法はありません。この場合は、指が再び使えるようになる（傷が治るなど）まで待つか、パスポートを削除（[削除] 使用）して、新しい指紋を登録し直すことをお勧めします。 パスポートを削除した場合は、保存されたすべてのシークレットデータ（パスワード、[File Safe] 、暗号化キー）が消失しますのでご注意ください。削除操作を行うには、パスワードダイアログを出すために指紋認証操作をキャンセルすることが必要です。そしてWindowsのログオンパスワードを入力してください。 • [File Safe] にアクセスするには 手順②を行っていない場合は、[File Safe] バックアップパスワードを使って [File Safe] にアクセスできます。

■ 指紋センサー

TPM が使えない。	● TPM（内蔵セキュリティチップ）と一緒に[拡張セキュリティ]を使用している場合に、TPMが損傷または削除されたり、無効になったりしている場合、[拡張セキュリティ]は動作しません。 [拡張セキュリティ]バックアップパスワードを使用しない場合は、「所有者データの再登録」を行ってください（➔ 76ページ）。[拡張セキュリティ]バックアップパスワードを使用する場合は、以下の手順を行ってください。 ① バックアップパスワードを使って、[指紋の登録または編集] ウィザードへ入る。 ② [拡張セキュリティ]を無効にし、終了する。 ③ TPMを修理し有効にした後（またはその内容を削除しただけの場合）、指を使って[指紋の登録または編集]ウィザードへ再び入り、再びTPMと[拡張セキュリティ]を有効にする。
指紋センサーの交換	● 指紋センサーを交換する必要がある場合は、以下の作業を行ってください。 ハードディスクへの登録： [ハードディスクへの登録] に設定してある場合は、[Protector Suite QL] はデバイス上にどのデータも保存していませんので、センサーを交換した後も問題ありません。しかし、パワーオンセキュリティ（リブート認証）を使っている場合は、[指紋の登録、または編集] を使って関係データをアップデートすることが必要になる場合があります。 デバイスへの登録： 指紋がデバイスに登録されている場合は、新しいパスポートを要求されます。「所有者データの再登録」（➔ 76ページ）を行ってください。
[拡張セキュリティ] のバックアップパスワードを消失した。	● [指紋の登録、または編集] で指をスキャンし、指紋登録をしてください。 [拡張セキュリティ] でバックアップパスワードを変更することができます。
Protector Suite QL の再インストール	● Protector Suite QL をアンインストールしている間に、パスポートを含む Protector Suite データを消去する／しないを選択できます。 ● 製品の再インストールをしたい場合、Protector Suite QL データをパソコンに残すボタンを選んでください。インストールの後、再びデータを使用することができます。 ● パスポートを含む Protector Suite QL をアンインストールしても、指紋をデバイスに登録している場合、指紋は削除されませんので再インストール後に再登録することができます。 指紋データの登録場所を変えたい場合は、Protector Suite QL の再インストールが必要です。

■ 指紋センサー

[File Safe] のバックアップパスワードを消失した。	● [File Safe] バックアップパスワードを変更する必要があります。ソフトウェアのヘルプ（➔ 67 ページ）をご覧ください。
Protector Suite QL をアンインストールした後に [File Safe] にアクセスしたい。	● [File Safe] データへは Protector Suite QL を使ってのみアクセスできます。誤って Protector Suite QL をアンインストールした場合は、再インストールの必要があります。アンインストールの間にパスポートを取り除かなかった場合は、[File Safe] を含むすべてが自動的に働きます。アンインストールの間にパスポートデータを取り除いた場合は、[File Safe] はインストールが変わったことを認識して、代わりにバックアップパスワードの使用を提示します。
パソコンがクラッシュした後に [File Safe] にアクセスしたい。	● エクスポートしたパスポートを持っている場合は、すぐにインポートすると、指紋を使って [File Safe] にじかにアクセスできるようになります。または、[File Safe] バックアップパスワードを使って [File Safe] にアクセスできます：[File Safe] はインストールが変わったことを認識して、代わりにバックアップパスワードの使用を提示します。
指紋センサーからデータを消去したい。	● 「デバイスへの登録」に設定した場合、パスポートデータはデバイスに保存されます。それを消去するには、[削除] で既存のパスポートを消去し、さらに [指紋デバイス内データ管理] を使って残りの指紋（前のインストールから残っているなど）を消去します。 ● 便利モードでは、[指紋デバイス内データ管理] は既存のパスポートを残すために最新の指紋データを消去させないようになっており、ユーザー個人の指紋のみ消去できます。従ってまずはパスポートを消去することが必要です。

■ バーコードリーダー

読み取りができない。	● バーコードに傷や汚れがないか確認してください。 ● バーコードが仕様にあっているか確認してください。 ● バーコードと本機の距離を調整してください。 大きいバーコードを読み取るときは遠くから、小さいバーコードやバーが細いバーコードを読み取るときは近くから操作してください。 ● バーコードを読み取る際に、リーダーとバーコードを近づけすぎていないか確認してください。

■ ユーザー簡易切り替え機能

アプリケーションソフトなどが正しく動作しない。	● ユーザーの簡易切り替え機能を使用して別のユーザーに切り替えると、以下のような問題が起きる場合があります。ユーザーの簡易切り替え機能を使うことはあまりお勧めできません。 • アプリケーションソフトが正しく動作しない。 • 画面の設定ができない。 • 無線 LAN が使えない。 • Bluetooth が使えない。 このような場合は、ユーザーの簡易切り替え機能を使わずにすべてのユーザーをログオフした後、再度ログオンして操作してください。それでも正しく動作しない場合は、パソコンを再起動してください。
「Could not find any compatible Direct3D devices」が表示された。	● 3D スクリーンセーバーを使用しないでください。

■ その他

応答がない。	● [ ] ボタンを押してタスクマネージャを起動し、応答のないアプリケーションソフトを終了してください。 ● 入力待ち画面（起動時のパスワード入力画面など）が別のウィンドウで隠れています。**Alt** + **Tab** で表示されている画面を確認してください。 ● 電源スイッチを 4 秒以上押してパソコンの電源を切った後、再度電源を入れ、アプリケーションソフトを起動してください。Windows が正しく動作しているにも関わらずアプリケーションが起動しない場合は、[スタート] - [コントロールパネル] - [プログラムの追加と削除] をクリックし、そのアプリケーションソフトをいったん削除してから再度インストールしてください。

■ その他

クレードルと外部キーボードを接続していないと、Windows エラー回復処理を選択する画面やセットアップユーティリティが操作できない

- クレードルにパソコンと外部キーボードを接続し、外部キーボードを使って操作してください。
- 外部キーボードとクレードルが使用できないときは、緊急対応として下記のハードウェアボタンをキーボードのキーの代わりに使用できます。

ヘルスケアモデル（バーコードリーダー内蔵）	ヘルスケアモデル（バーコードリーダー非内蔵）	フィールドモデル	キーボード
		A1	
RFID RFID	RFID RFID	A2	
	A1	A3	
A1	A2	A4	
A2	A3	A5	Esc
			F2[*1]

[*1] セットアップユーティリティの「メイン」の「SAS ボタン」を使用して、変更することができます。

パソコンの使用状態を確認する

PC 情報ビューアーを使うと、パソコンの使用状態を確認することができます。BIOS のバージョンやインストールされているアプリケーションソフトやハードディスクの管理情報、ドライバーの名称などが確認でき、お問い合わせ時にも役立ちます。

お知らせ

- 本機では、ハードディスクなどの管理情報がハードディスク内に定期的に記録されます。記録されるデータ量は、1 回あたり最大 2048 バイトです。これらの情報は、万が一、ハードディスクが故障したときの原因を推定するためにのみ使用するもので、本情報をネットワーク経由で外部に発信したり、目的以外に使用したりすることはありません。
  この機能を無効にするには、PC 情報ビューアーの [ハードディスク使用状況] の [管理情報の履歴を自動的に記録する機能を無効にする] のチェックボックスにチェックマークを付けて [OK] をクリックしてください。
- ゲスト権限でログオンした場合は、一部「未検出」と表示される情報があります。
- 実行中は、PC 情報ビューアーの画面は、常に手前に表示されます。

1 **[スタート] - [すべてのプログラム] - [Panasonic] - [PC 情報ビューアー] - [PC 情報ビューアー] をクリックする。**

2 **項目をクリックして、その項目の詳細情報を表示する。**

■ 情報をテキストファイルで保存する

1 **保存したい情報を表示する。**

2 **[保存] をクリックする。**

3 **ファイル保存する範囲を選択し、[OK] をクリックする。**

4 **情報を保存するフォルダーを選択し、ファイル名を入力して [保存] をクリックする。**

- [管理情報の履歴を自動的に記録する機能を無効にする] になっていない場合は、記録済みの履歴も保存されます。

■ 画面のコピーを画像ファイルで保存する

1 **保存したい画面を表示する。**

2 **[スタート] - [すべてのプログラム] - [Panasonic] - [PC 情報ビューアー] - [画面コピー] をクリックする。**

3 **メッセージが表示されたら [OK] をクリックする。**
[ドキュメント] フォルダーに画面の画像ファイルが保存されます。

お知らせ

- 画像は 256 色のビットマップファイルです。
- 拡張デスクトップモード（➔ 80 ページ）を使用しているときは、プライマリーデバイス側に表示している画面が保存されます。
- パソコンをクレードルに取り付けて、外部キーボードをクレードルに接続しているときは、キーボードの操作で画面を保存することもできます。工場出荷時は、コピーするキーの組み合わせは Ctrl + Alt + F7 になっています。次の手順で変更することもできます。
  ① コンピューターの管理者の権限で Windows にログオンする。
  ② [スタート] - [すべてのプログラム] - [Panasonic] - [PC 情報ビューアー] をクリックする。
  ③ [画面コピー] を右クリックし、[プロパティ] - [ショートカット] をクリックする。
  ④ [ショートカット キー] にカーソルを置き、ショートカットに使うキーを押す。
  ⑤ [OK] をクリックする。

自動最適化を無効にする

< フラッシュメモリーモデルのみ >
Windows では、ファイルへのアクセスの高速化などのために、自動的に「最適化」の処理を行います。
ただしフラッシュメモリモデルの場合、最適化を行わなくても高速でファイルにアクセスできるため、自動的に最適化を行う必要がありません。また、最適化による処理回数を減らすことにより、長期間フラッシュメモリをお使いいただくことができるため、自動最適化を無効にすることをお勧めします。

お知らせ

- 自動最適化を無効にすると、接続されている外部のハードディスクの自動最適化も無効になります。
  コンピューターのパフォーマンスへの影響を避けるため、必要であれば設定を変更してください。

■ Windows の自動最適化を無効にする

1 **コンピューターの管理者の権限で Windows にログオンする。**

2 **すべてのアプリケーションソフトを閉じる。**

3 **[スタート] - [ファイル名を指定して実行] をクリックして、「c:\util\setdfrg\setdfrg.exe」と入力して、↵をクリックする。**

- 自動デフラグ設定変更ユーティリティが表示されます。

4 **[自動デフラグを無効にする] をクリックする。**

- 有効に戻す場合は、[自動デフラグを有効にする (Windows 標準)] をクリックします。

5 **確認メッセージが表示されたら、[OK] をクリックする。**

PCJ0282O_T